

個別指導学院アシストの学習指導方針について

～志望校合格と点数アップのために～

はじめに

個別指導学院アシストの代表の前田敏秀と申します。

このたびは本小冊子をお読みくださりありがとうございます。

本学院は開講して三年目の学習塾になります。

私自身の経歴としましては、大手塾などを経験し、集団授業、個別指導、両方の指導に関わってきました。

対象の生徒様は公立小学校の生徒様、中学受験生、中学生、中高一貫生、高校生、大学受験生など様々です。

多くの塾様は公立の中学校の専門の塾様が多いですが、地域密着の塾としては、大学受験を一つのゴールとして、受験にかかわる総合的なアシストをさせていただいております。

実際のところ、2023年9月現在におきましては、通われている生徒様も公立中学（蒲生中、董中など）は少なく、私立の中高一貫校の生徒様、および高校生の生徒様のほうが多いです。

この小冊子では現在における肌で感じている教育の現場の現状、及び問題点、そして、アシストの考えをお伝えいたします。

その上で、ご関心をおもちいただければ、ぜひともまずは個別説明会、体験授業にお越しくださいませ。

小学校、中学校、中高一貫校、高校における現場から見える学校の現状と課題、そしてアシストができる問題解決についてお話させていただきます。

## ・小学校の現状と問題点

今、小中学生の学力低下、特に読解力の低下が問題視されています。

実は、原因はわりとはっきりしていてスマホだと言われています。

読解力の低下については、アシストを開講する以前から長年感じている問題です。

国語における「読む力」との低下です。

国語とは日本語です。

国語が苦手な生徒さんは漫画すら読みません。小説や物語などはなおさらです。

また一般常識としての童話をしりません。「シンデレラ」「浦島太郎」「白雪姫」などの話を知らない生徒さんも多いです。

もし、小学生のお子さんをお持ちの保護者の方がこの冊子を読まれていれば、お子さんはそういった童話をお読みでしょうか？

ぜひ聞いてみることをおすすめします。

そして、どんなあらすじであったか聞いてみてください。

小学校の高学年でこたえることができなければ、国語力は黄色信号が点滅しています。

また小中学生全体の読む力が弱く、中1の平均的な国語の点数をとる生徒さんでも、小三レベルの国語の問題に苦戦する生徒さんも多いです。

読む力が弱い原因の一つが、長い文章を読むことに耐えられる集中力が続かないことです。

国語の苦手な生徒さんはA4くらいの問題が読めません。

集中力が続かないのです。

A4 というとこの冊子でここまでかいた文章量くらいです。

しかも実際には小学生向けですから、もっと大きな字で行間も開けて書いてありますので、A5 くらいの分量です。

この分量を読む集中力が続かないのです。

読めないというは2つの段階があります。

一つは文字通り読めなくて集中力が続かないので読むこと自体を投げ出すのです。

アシストでは、そういう場合は講師が声を出して読んで、生徒にあとに続いて声を出して読んでもらいます。

次の「読めない」の段階は文脈が読み取れるかどうかです。

具体的には文章ででてくる「これ」という指示語が的確に把握することができるかどうかです。

国語の苦手な生徒さんはこれできません。

今の例でいうと前の文の「これ」が『文章ででてくる「これ」という指示語が的確に把握すること』が読めない生徒さんも多いです。

特に中学受験では長い文章が出題されます。

イメージとしてはA3両面に文章ぎっしりくらいのイメージです。  
この長い文章を、集中力を途切れさせず、早的的確に読むことが課題になります。  
アシストでは問題を解くだけでなく、まずは生徒様によっては本を読むことに慣れてもらうこと、そして本を読むたのしさを知ってもらうことから始めます。

次に書く力の問題についてです。  
これは表面的にはなかなかわかりません。  
表面的に現れるのは「記述問題」が苦手程度です。  
ですから、小学校、中学校の間は大した問題として表面化していないだけのことです。  
なぜなら、記述問題の点数配分は小さく、極端な話、点数をとるためには記述問題にこだわるよりも、暗記問題をしっかりマスターしたほうが、点数が稼げるからです。  
しかし、高校生になってから、書く力が弱いことについて影響力が如実にでてきます。  
とくに英語で出てきます。  
英語と国語は言語学として表裏一体です。  
なぜなら英語を日本語訳にするときに国語としての書く力や読む力が求められるからです。  
英語の苦手な高校生は国語の書く力が弱いです。  
そもそも日本語の作文が苦手です。  
英語以前に日本語としておかしな文を書きます。  
具体的には英単語の意味を全部調べて、文法的な修飾、被修飾の関係を全部整理して、あとは多少表現を変えながら言葉を並び替えればいだけにも関わらず、それができないこともたくさんあります。

**アシストでは小学校のころから国語力アップを意識した指導をしています。**

次に、小学生における英語についてです。  
現在、小学校でも英語の授業が行われていますが、ほとんどの場合、全く身につかずに中学校のカリキュラムが進んでいます。  
生徒目線では小学校から中学校にあがって急に難しくなっているはずですが。  
**アシストでは小学校のうちに英検4級は取得することを推奨しています。**  
すると、中学校にあがっても、得意科目になっていくことでしょう。  
そのためにアシストでは通常週1回の料金で週2回分の個別指導を受講いただくことが可能です。

## ・ 中学受験について

アシストではご家庭の経済力に余裕があるのであれば中学受験をおすすめしています。

理由の一つが、公立中を卒業してからの国公立大、特に理系学部の受験が非常に難易度が高いからです。

ご自身が大学受験をされた保護者様も多いと思いますが、保護者の皆様の世代と比べると、理系分野については約1.5倍勉強する量が多くなっています。

そして、保護者様の世代よりも国公立大と関関同立の差が大きいです。

保護者様の世代であれば地方の国立よりも関関同立を選ばれた人も多かった世代ですが、時代は変化しています。

決して易しいわけではないですが、文系については、関関同立は保護者様の世代よりも易しくなっていると思います。

それは背景として少子化の問題があります。

一方、国公立大は難しくなっています。

その背景としましては、理系の勉強量が増えていることと、英語が難しくなっていることがあります。

理系の勉強量が増えているというのは前述のとおりですが、カリキュラムについて、もう少し具体的に申し上げます。

中高一貫校では公立にくらべて、おおよそ一年早くカリキュラムが進みます。

そして高2までに高校の範囲をほぼ修了し、高3は受験対策を行います。

英語は公立と比べて非常に早いというわけでもないですが、数学はどの私立中学も基本的に進むペースが早いです。

なぜかといいますと、高2までに、数学のカリキュラムを終わらせて、高3はひたすら復習と国公立の2次試験対策をする必要があるからです。

公立トップの文理学科に行く生徒でも、国公立大を目指す生徒は半分くらいは浪人します。

その理由の多くが、公立高校では2次試験対策が間に合わないからです。

理系の厳しさは国公立大だけではありません。

関関同立でも数学は公立中、公立高校にいくと時間的にかなり厳しいものになります。

次に英語です。

特に英語の配点が共通テストにおいて200点中、100点がリスニングです。

これはペーパーテストしかしたことがない生徒が、いきなり高3でリスニング対策をしても、なかなか点数はとれません。

よって、当塾でも推奨していますが、私立中学では英検、学校によってはTOEICを受験させることにより、リスニング対策を行います。

アシストでも英検対策を通じて、リスニング、スピーキング対策を行っています。

そして、中高一貫校で英語のいいところは、文法の授業とリーディングの授業を分けて行うことです。

公立は中高一貫校ほど文法をしっかりと学習しません。

そういう意味でもアシストでは学校以上に文法をしっかりと学習していただいています。

そして、公立中に通われている方が気を悪くされては申し訳ないですが、コロナ禍以降、内申点が高くつく傾向にあります。

私の知人で、とある私立高校の教師がいるのですが、公立中学で通知表オール5の生徒で、一番成績の良い生徒と悪い生徒で本番の500満点ペーパーテストが200点の差がついているそうです。

つまり内申点と実際の学力があっていないのです。

ですから、高校受験という目線では内申点が高いことはもちろん重要なのですが、一方、大学受験という目線では実態よりも内申点が高くなるので、大学受験で苦労するということが多々あります

そして、中学受験をおすすめする最大の理由は、あまりに授業態度が悪い生徒がまずいないことです。

私立中の授業においては、だれもが中学受験をクリアしているので、授業中に「まず座れ」「とりあえず後ろ向いて話すな。」という指導を先生がしているという話はききません。

公立中は残念ながらクラスによってはこれがありえます。

すると、勉強を真面目にしたい生徒の邪魔になります。

なお、アシストではそのような生徒さまは、申し訳ないですがご入塾できません。あるいは退塾いただきます。

## ・公立中学におけるアシストの英語対策

次に公立中学校についてのアシストの英語対策をお話します。

繰り返しですが、学習指導要領の改定から英語が難しくなっています。

具体的にいうと覚える英単語だけでも 1.5 倍になりました。

以前であれば、I am, you are を学習している時期に、I want to などの不定詞も形だけとはいえ授業で学習しています。

**多くの個別指導塾は週 1 回、80 分から 90 分くらいの授業で行っていますが、勉強する量が増えているのに、以前と同じことをして同じ様に成績があがるわけがありません。**

たしかに成績がアップする生徒もいます。

そういう生徒さんは平均よりもかなり上で、英語の基礎力がついている生徒さんです。

具体的にいいますと、英検 3 級を持っていると中学英語で根本的に躓くことはまずありません。

よって、アシストでは可能であれば中学 2 年、おそくとも中学 3 年の夏くらいまでに英検 3 級の取得をサポートします。

**そのために、週 1 回の授業料と無料とさせていただきます。**

おおくの個別指導塾では英語、数学の週 2 回をとっている人が多いですが、アシストでは英語 2 回、数学 1 回の週 3 回を推奨しています。(それで授業料は週 2 回と同じです。)

## ・勉強がとにかく苦手な生徒様

勉強がとにかく苦手な生徒さん、たとえば 500 点満点で 150 点以下の生徒様、そのような生徒さまもやる気のある方は歓迎です。

もし、学校の宿題もまともに出したことない生徒さんであれば、科目にとらわれずまずは学校の宿題を完成させることから始めます。(ただし、副教科は対象外です。)

一緒に頑張ることで、まずは宿題をやりどけることから始めましょう。

本番の点数よりも内申点で合格する学校選びをおすすめします。

まずは通知票オール 3 をめざします。

## ・5 科目の定期テスト対策

中学生につきましては、これは中高一貫校生も同じですが、定期テスト前などには普段受講していない、理科・社会などの補講も可能です。

その場合は、必ずしも 1:2 の授業はお約束できませんが、無料で補講としてのテスト対策もご希望であれば可能な限りさせていただきます。

## ・中高一貫校対策について

中高一貫校の生徒様については、学校ごとというより、先生ごとに授業内容を合わせる必要があります。

よって、塾の内容も生徒様にあわせた指導をいたします。

ところで、これから中学受験をご検討のかたに参考になればとおもいますが、いわゆる偏差値の高い中学校がレベルの高い授業をしているかといえば、実はそうでもありません。

例えば、この近隣の私立中学さんとして、常翔学園さん、大阪国際さん、開明さんとありますが、中学入試の難易度としては圧倒的に開明さんが高いです。しかし、授業進度や難易度が大阪国際さんと大きく違うかというとは実はそれほど差はないように思います。

中学受験の難易度としては、常翔学園さんのほうが大阪国際さんよりやや高いイメージですが、カリキュラムのスピードは大阪国際さんの方が早いです。(特に英語)

京阪沿線でいいますと、同志社香里さんはかなり特殊です。

社会、理科はほぼ完全にオリジナルのカリキュラムですし、英語についてもネイティブ感覚に近い先生が教えているので、いわゆる受験英語では教えないような文法も教えることがあります。

アシストではそのような場合、基本的に学校の先生に合わせて授業をしますが、補足説明も行います。

## ・中高一貫校の注意点

中高一貫校の注意点としては、高校受験がないので、わからなくなってもそのまま進学してしまうことです。

これも特に英語が注意です。

中高一貫校で高3になってから挽回したいという生徒さんもいらっしゃいますが、相当の努力が必要です。

実はアシストの一期生の生徒さんがそういう生徒さんでした。

高3の一学期に入塾いただきまして、Are you と Do you から復習しました。

つまり中一英語からの復習です。

毎日6時間位ずっと英語の勉強をしていました。

結果どうなったかというと桃山学院大学に合格しました。

**つまりやればできます。**

しかし、そもそも嫌いな科目であったから今までやっていなかったわけで相当の覚悟と努力が必要です。

## ・高校生、大学受験対策

原則として大学受験は関関同立合格、国公立志望の高2生まで、あるいは高3の予備校とのダブルスクールを想定しています。

私どもの指導方針として、大学受験を検討されているご家庭につきましては、高校選びの時点で大学受験意識した生徒様への進路指導および、保護者様への情報提供を行っています。

したがって、大学受験を意識しているご家庭につきましては、高校受験は一つの通過点として、高校受験の情報提供を行っています。

大学受験という観点で大阪近辺の高校選びを考えますと、東高校より下の偏差値ラインであれば、経済的に問題なければ私立高校を選んだほうが良いと思います。(すでに公立高校を選ばれた方は非常に恐縮ですが。)

その大きな理由は推薦枠です。

偏差値が同じ、いや、むしろ多少低くても私立のほうが、推薦枠が圧倒的に多いのです。

数年前、旭高校の教え子が評定で4.2もあったのに推薦がとれなかったということもあります。(一般で合格しましたが。)

個人的には公立学校の問題だと思っていますが、それが現実です。

## ・高校生の英語対策

アシストでは生徒様にあわせて授業をしますので、学校の補講として学校に合わせた授業をすることもできますし、学校のカリキュラムを無視して、大学受験対策の授業をすることも可能です。

基本的には中高一貫校の生徒さんは学校にあわせて授業をします。

しかし、高2以上で入塾された生徒さんや学校のカリキュラムが遅い場合、逆に早すぎる場合は、大学受験を意識した独自のカリキュラムで授業を行っています。

とくに高3生になると、学校のカリキュラムに合わせる意味があまりないので、原則、学校にあわせず大学受験対策を行います。

そして、高2までに英検2級を取得することを推奨しています。

英検2級を取得すれば大学によってはほぼ合格点をくれる大学もあります。

また、自分でも英語の勉強を進めることができる基礎力が身につけている目安にもなります。

#### ・高校生の文系対策

産近甲龍以上の大学では多くの場合、英語、現代文、古文、社会の四科目受験になります。

摂南以下の大学や公募の一部は英語と現代文です。

つまり、産近甲龍以上を目指すか、それ以外かでやることが大きく変わります。

特に、旭高校クラスの生徒さんの場合、古典と社会が大きく負担になってきますので、高一からの通塾をおすすめします。

文理選択がまだでも、できるだけ早く英語の力を身につけるためです。

そして、古典の基礎文法を2年生の夏休み前には完成しておきたいです。

くわえて、社会については2年間に一周はしておきたいです。学校によっては2年間かけて、教科書を一周する学校もありますが、それでは遅い、あるいは3年生がかなりきつくなります。

英語・古典・社会の基礎をできるだけ早期身につけることです。

また現代文については漢検準2級以上取得を目安に漢字の勉強をしつつ、アシストが提供するプロ講師による現代文の授業を取っていただくのがおすすめです。

#### ・高校生の理系対策

理系に進まれる場合は、文系以上に早く進路を決めておく必要があります。

というのも数Ⅲ(C)がスケジュール的にかなりきついからです。

大学受験は一般試験が2月にあります。

ということは、1年生のときに1・A、2年生で2・B、3年生で3・(C)とやっている間に合いません。

特に神大以上を目指す場合は1・Aを高1の1学期くらいで終わって、2学期に2・Bに進む必要があります。

実際のところ東以上の高校はそれくらいもスピードで進みます。

先にお話しましたが、中高一貫校では中3で数学は高校分野にはいってきますが、何のためかというと理系に進んだ場合、高2までに数Ⅲ・(C)のほとんどを終わるためです。

アシストの考える良い授業とは

当然、生徒のやる気があがって成績があがって、志望校に合格するのが良い授業です。

しかしそれはあまりに抽象的な答えです。

ここでは個別指導塾におけるよくある誤解をお話しておきたいと思います。

・先生（講師）の教えている時間が長い授業が、成績が上がる授業とはかぎらない。

基本的に個別指導の良い授業は、講師が話している時間が短くて、生徒がペンを動かしている時間が長い授業が良い授業です。

生徒の多くは解き方や答えをすぐに知りたがります。

しかし大事なことは考えることや、勉強の仕方を学ぶことです。

講師はポイントだけ話して、生徒がペンを動かしている授業が良い授業です。

ただし例外もあります。たとえば高3の難しい数学や、英語の長文、さらに中学受験の国語などです。そういった授業は予め生徒が自習や宿題で解いてきて、講師の解説を聞いたり、わからないところを質問する授業になります。

このような授業は講師が話している時間が長くならざるを得ません。

しかし、平均レベルの中学生の授業はむしろ生徒がペンを動かしている時間が長い授業の方がいい授業です。

・通塾しているだけでは成績はあがらない

例えば週1回80分、宿題もなし。

こういう授業で結果がでるのは公立中学校の平均点以下の成績です。

基本的に成績が上位層の生徒、あるいは学年があがるほど、塾にきていないときの勉強法が大事になってきます。

たとえば、週1回80分の勉強で合格できる大学などありませんし、それで合格できるなら通塾の必要はありません。

アシストは自習スペースは営業時間中はいつでも利用できます。

また、補講も原則無料で行っています。

最低限度の宿題はもちろん、塾以外の勉強も行っただきます。

特に中学受験生は授業以外の時間もしっかりと宿題の指示をいたしますので、自習スペースで行っていただき、わからないところはいつでも質問にお答えします。

- ・小中学生はしかります。高校生はしかりません。

個別指導塾の多くは集団授業ほど叱りません。

しかし、アシストは態度の悪い生徒や宿題をしない生徒は叱ります。

とくに中学生や中学受験生は集団塾のように叱ります。

場合によっては「帰れ。」とまでいいます。

当塾では補講も可能な限り無料でさせていただきます。そして自習スペースも提供しています。

よってまじめに勉強したい生徒に迷惑のかかる行為や宿題をしない生徒はしかります。

ただし、単にしかるだけでなく、可能な限り補講に呼びます。

一方高校生はしかりません。

勉強のやり方はお伝えいたしますが、やる気が云々という生徒さんは、まずはやる気になってからきてください。

- ・コピー機、ネット環境は無料で使用できます。

学校のプリント、塾の教材などのコピーは無料をご利用いただけます。

また最近ではデータでの課題提出や学校から解答を送られてくる場合も多いですが、wifiも無料で開放しております。

- ・自習スペース
- ・中学生はいつでも5科目質問可能。(高校生は科目によります)
- ・補講も原則無料
- ・コピー機、wifiなどの施設も無料開放

アシストは勉強できる最高の環境を提供しております。

やる気のある生徒様はぜひともお待ちしております。

個別指導学院アシスト 学院長 前田敏秀

個別指導学院アシストの学習指導方針について

～志望校合格と点数アップのために～

はじめに

個別指導学院アシストの代表の前田敏秀と申します。

このたびは本小冊子をお読みくださりありがとうございます。

本学院は開講して三年目の学習塾になります。

私自身の経歴としましては、大手塾などを経験し、集団授業、個別指導、両方の指導に関わってきました。

対象の生徒様は公立小学校の生徒様、中学受験生、中学生、中高一貫生、高校生、大学受験生など様々です。

多くの塾様は公立の中学校の専門の塾様が多いですが、地域密着の塾としては、大学受験を一つのゴールとして、受験にかかわる総合的なアシストをさせていただいております。

実際のところ、2023年9月現在におきましては、通われている生徒様も公立中学（蒲生中、董中など）は少なく、私立の中高一貫校の生徒様、および高校生の生徒様のほうが多いです。

この小冊子では現在における肌で感じている教育の現場の現状、及び問題点、そして、アシストの考えをお伝えいたします。

その上で、ご関心をおもちいただければ、ぜひともまずは個別説明会、体験授業にお越しくださいませ。

小学校、中学校、中高一貫校、高校における現場から見える学校の現状と課題、そしてアシストができる問題解決についてお話させていただきます。

## ・小学校の現状と問題点

今、小中学生の学力低下、特に読解力の低下が問題視されています。

実は、原因はわりとはっきりしていてスマホだと言われています。

読解力の低下については、アシストを開講する以前から長年感じている問題です。

国語における「読む力」との低下です。

国語とは日本語です。

国語が苦手な生徒さんは漫画すら読みません。小説や物語などはなおさらです。

また一般常識としての童話をしりません。「シンデレラ」「浦島太郎」「白雪姫」などの話を知らない生徒さんも多いです。

もし、小学生のお子さんをお持ちの保護者の方がこの冊子を読まれていれば、お子さんはそういった童話をお読みでしょうか？

ぜひ聞いてみることをおすすめします。

そして、どんなあらすじであったか聞いてみてください。

小学校の高学年でこたえることができなければ、国語力は黄色信号が点滅しています。

また小中学生全体の読む力が弱く、中1の平均的な国語の点数をとる生徒さんでも、小三レベルの国語の問題に苦戦する生徒さんも多いです。

読む力が弱い原因の一つが、長い文章を読むことに耐えられる集中力が続かないことです。

国語の苦手な生徒さんはA4くらいの問題が読めません。

集中力が続かないのです。

A4 というとこの冊子でここまでかいた文章量くらいです。

しかも実際には小学生向けですから、もっと大きな字で行間も開けて書いてありますので、A5 くらいの分量です。

この分量を読む集中力が続かないのです。

読めないというは2つの段階があります。

一つは文字通り読めなくて集中力が続かないので読むこと自体を投げ出すのです。

アシストでは、そういう場合は講師が声を出して読んで、生徒にあとに続いて声を出して読んでもらいます。

次の「読めない」の段階は文脈が読み取れるかどうかです。

具体的には文章ででてくる「これ」という指示語が的確に把握することができるかどうかです。

国語の苦手な生徒さんはこれできません。

今の例でいうと前の文の「これ」が『文章でてくる「これ」という指示語が的確に把握すること』が読めない生徒さんも多いです。

特に中学受験では長い文章が出題されます。

イメージとしてはA3両面に文章ぎっしりくらいのイメージです。  
この長い文章を、集中力を途切れさせず、早的的確に読むことが課題になります。  
アシストでは問題を解くだけでなく、まずは生徒様によっては本を読むことに慣れてもらうこと、そして本を読むたのしさを知ってもらうことから始めます。

次に書く力の問題についてです。  
これは表面的にはなかなかわかりません。  
表面的に現れるのは「記述問題」が苦手程度です。  
ですから、小学校、中学校の間は大した問題として表面化していないだけのことです。  
なぜなら、記述問題の点数配分は小さく、極端な話、点数をとるためには記述問題にこだわるよりも、暗記問題をしっかりマスターしたほうが、点数が稼げるからです。  
しかし、高校生になってから、書く力が弱いことについて影響力が如実にでてきます。  
とくに英語で出てきます。  
英語と国語は言語学として表裏一体です。  
なぜなら英語を日本語訳にするときに国語としての書く力や読む力が求められるからです。  
英語の苦手な高校生は国語の書く力が弱いです。  
そもそも日本語の作文が苦手です。  
英語以前に日本語としておかしな文を書きます。  
具体的には英単語の意味を全部調べて、文法的な修飾、被修飾の関係を全部整理して、あとは多少表現を変えながら言葉を並び替えればいだけにも関わらず、それができないこともたくさんあります。

**アシストでは小学校のころから国語力アップを意識した指導をしています。**

次に、小学生における英語についてです。  
現在、小学校でも英語の授業が行われていますが、ほとんどの場合、全く身につかずに中学校のカリキュラムが進んでいます。  
生徒目線では小学校から中学校にあがって急に難しくなっているはずですが。  
**アシストでは小学校のうちに英検4級は取得することを推奨しています。**  
すると、中学校にあがっても、得意科目になっていくことでしょう。  
そのためにアシストでは通常週1回の料金で週2回分の個別指導を受講いただくことが可能です。

・ 中学受験について

アシストではご家庭の経済力に余裕があるのであれば中学受験をおすすめしています。

理由の一つが、公立中を卒業してからの国公立大、特に理系学部の受験が非常に難易度が高いからです。

ご自身が大学受験をされた保護者様も多いと思いますが、保護者の皆様の世代と比べると、理系分野については約1.5倍勉強する量が多くなっています。

そして、保護者様の世代よりも国公立大と関関同立の差が大きいです。

保護者様の世代であれば地方の国立よりも関関同立を選ばれた人も多かった世代ですが、時代は変化しています。

決して易しいわけではないですが、文系については、関関同立は保護者様の世代よりも易しくなっていると思います。

それは背景として少子化の問題があります。

一方、国公立大は難しくなっています。

その背景としましては、理系の勉強量が増えていることと、英語が難しくなっていることがあります。

理系の勉強量が増えているというのは前述のとおりですが、カリキュラムについて、もう少し具体的に申し上げます。

中高一貫校では公立にくらべて、おおよそ一年早くカリキュラムが進みます。

そして高2までに高校の範囲をほぼ修了し、高3は受験対策を行います。

英語は公立と比べて非常に早いというわけでもないですが、数学はどの私立中学も基本的に進むペースが早いです。

なぜかといいますと、高2までに、数学のカリキュラムを終わらせて、高3はひたすら復習と国公立の2次試験対策をする必要があるからです。

公立トップの文理学科に行く生徒でも、国公立大を目指す生徒は半分くらいは浪人します。

その理由の多くが、公立高校では2次試験対策が間に合わないからです。

理系の厳しさは国公立大だけではありません。

関関同立でも数学は公立中、公立高校にいくと時間的にかなり厳しいものになります。

次に英語です。

特に英語の配点が共通テストにおいて200点中、100点がリスニングです。

これはペーパーテストしかしたことがない生徒が、いきなり高3でリスニング対策をしても、なかなか点数はとれません。

よって、当塾でも推奨していますが、私立中学では英検、学校によってはTOEICを受験させることにより、リスニング対策を行います。

アシストでも英検対策を通じて、リスニング、スピーキング対策を行っています。

そして、中高一貫校で英語のいいところは、文法の授業とリーディングの授業を分けて行うことです。

公立は中高一貫校ほど文法をしっかりと学習しません。

そういう意味でもアシストでは学校以上に文法をしっかりと学習していただいています。

そして、公立中に通われている方が気を悪くされては申し訳ないですが、コロナ禍以降、内申点が高くつく傾向にあります。

私の知人で、とある私立高校の教師がいるのですが、公立中学で通知表オール5の生徒で、一番成績の良い生徒と悪い生徒で本番の500満点ペーパーテストが200点の差がついているそうです。

つまり内申点と実際の学力があっていないのです。

ですから、高校受験という目線では内申点が高いことはもちろん重要なのですが、一方、大学受験という目線では実態よりも内申点が高くなるので、大学受験で苦労するということが多々あります

そして、中学受験をおすすめする最大の理由は、あまりに授業態度が悪い生徒がまずいないことです。

私立中の授業においては、だれもが中学受験をクリアしているので、授業中に「まず座れ」「とりあえず後ろ向いて話すな。」という指導を先生がしているという話はききません。

公立中は残念ながらクラスによってはこれがありえます。

すると、勉強を真面目にしたい生徒の邪魔になります。

なお、アシストではそのような生徒さまは、申し訳ないですがご入塾できません。あるいは退塾いただきます。

## ・公立中学におけるアシストの英語対策

次に公立中学校についてのアシストの英語対策をお話します。

繰り返しですが、学習指導要領の改定から英語が難しくなっています。

具体的にいうと覚える英単語だけでも 1.5 倍になりました。

以前であれば、I am, you are を学習している時期に、I want to などの不定詞も形だけとはいえ授業で学習しています。

**多くの個別指導塾は週 1 回、80 分から 90 分くらいの授業で行っていますが、勉強する量が増えているのに、以前と同じことをして同じ様に成績があがるわけがありません。**

たしかに成績がアップする生徒もいます。

そういう生徒さんは平均よりもかなり上で、英語の基礎力がついている生徒さんです。

具体的にいいますと、英検 3 級を持っていると中学英語で根本的に躓くことはまずありません。

よって、アシストでは可能であれば中学 2 年、おそくとも中学 3 年の夏くらいまでに英検 3 級の取得をサポートします。

**そのために、週 1 回の授業料と無料とさせていただきます。**

おおくの個別指導塾では英語、数学の週 2 回をとっている人が多いですが、アシストでは英語 2 回、数学 1 回の週 3 回を推奨しています。(それで授業料は週 2 回と同じです。)

## ・勉強がとにかく苦手な生徒様

勉強がとにかく苦手な生徒さん、たとえば 500 点満点で 150 点以下の生徒様、そのような生徒さまもやる気のある方は歓迎です。

もし、学校の宿題もまともに出したことない生徒さんであれば、科目にとらわれずまずは学校の宿題を完成させることから始めます。(ただし、副教科は対象外です。)

一緒に頑張ることで、まずは宿題をやりどけることから始めましょう。

本番の点数よりも内申点で合格する学校選びをおすすめします。

まずは通知票オール 3 をめざします。

## ・5 科目の定期テスト対策

中学生につきましては、これは中高一貫校生も同じですが、定期テスト前などには普段受講していない、理科・社会などの補講も可能です。

その場合は、必ずしも 1:2 の授業はお約束できませんが、無料で補講としてのテスト対策もご希望であれば可能な限りさせていただきます。

## ・中高一貫校対策について

中高一貫校の生徒様については、学校ごとというより、先生ごとに授業内容を合わせる必要があります。

よって、塾の内容も生徒様にあわせた指導をいたします。

ところで、これから中学受験をご検討のかたに参考になればとおもいますが、いわゆる偏差値の高い中学校がレベルの高い授業をしているかといえば、実はそうでもありません。

例えば、この近隣の私立中学さんとして、常翔学園さん、大阪国際さん、開明さんとありますが、中学入試の難易度としては圧倒的に開明さんが高いです。しかし、授業進度や難易度が大阪国際さんと大きく違うかというとは実はそれほど差はないように思います。

中学受験の難易度としては、常翔学園さんのほうが大阪国際さんよりやや高いイメージですが、カリキュラムのスピードは大阪国際さんの方が早いです。(特に英語)

京阪沿線でいいますと、同志社香里さんはかなり特殊です。

社会、理科はほぼ完全にオリジナルのカリキュラムですし、英語についてもネイティブ感覚に近い先生が教えているので、いわゆる受験英語では教えないような文法も教えることがあります。

アシストではそのような場合、基本的に学校の先生に合わせて授業をしますが、補足説明も行います。

## ・中高一貫校の注意点

中高一貫校の注意点としては、高校受験がないので、わからなくなってもそのまま進学してしまうことです。

これも特に英語が注意です。

中高一貫校で高3になってから挽回したいという生徒さんもいらっしゃいますが、相当の努力が必要です。

実はアシストの一期生の生徒さんがそういう生徒さんでした。

高3の一学期に入塾いただきまして、Are you と Do you から復習しました。

つまり中一英語からの復習です。

毎日6時間位ずっと英語の勉強をしていました。

結果どうなったかというと桃山学院大学に合格しました。

**つまりやればできます。**

しかし、そもそも嫌いな科目であったから今までやっていなかったわけで相当の覚悟と努力が必要です。

## ・高校生、大学受験対策

原則として大学受験は関関同立合格、国公立志望の高2生まで、あるいは高3の予備校とのダブルスクールを想定しています。

私どもの指導方針として、大学受験を検討されているご家庭につきましては、高校選びの時点で大学受験意識した生徒様への進路指導および、保護者様への情報提供を行っています。

したがって、大学受験を意識しているご家庭につきましては、高校受験は一つの通過点として、高校受験の情報提供を行っています。

大学受験という観点で大阪近辺の高校選びを考えますと、東高校より下の偏差値ラインであれば、経済的に問題なければ私立高校を選んだほうがいいと思います。(すでに公立高校を選ばれた方は非常に恐縮ですが。)

その大きな理由は推薦枠です。

偏差値が同じ、いや、むしろ多少低くても私立のほうが、推薦枠が圧倒的に多いのです。

数年前、旭高校の教え子が評定で4.2もあったのに推薦がとれなかったということもあります。(一般で合格しましたが。)

個人的には公立学校の問題だと思っていますが、それが現実です。

## ・高校生の英語対策

アシストでは生徒様にあわせて授業をしますので、学校の補講として学校に合わせた授業をすることもできますし、学校のカリキュラムを無視して、大学受験対策の授業をすることも可能です。

基本的には中高一貫校の生徒さんは学校にあわせて授業をします。

しかし、高2以上で入塾された生徒さんや学校のカリキュラムが遅い場合、逆に早すぎる場合は、大学受験を意識した独自のカリキュラムで授業を行っています。

とくに高3生になると、学校のカリキュラムに合わせる意味があまりないので、原則、学校にあわせず大学受験対策を行います。

そして、高2までに英検2級を取得することを推奨しています。

英検2級を取得すれば大学によってはほぼ合格点をくれる大学もあります。

また、自分でも英語の勉強を進めることができる基礎力が身につけている目安にもなります。

#### ・高校生の文系対策

産近甲龍以上の大学では多くの場合、英語、現代文、古文、社会の四科目受験になります。

摂南以下の大学や公募の一部は英語と現代文です。

つまり、産近甲龍以上を目指すか、それ以外かでやることが大きく変わります。

特に、旭高校クラスの生徒さんの場合、古典と社会が大きく負担になってきますので、高一からの通塾をおすすめします。

文理選択がまだでも、できるだけ早く英語の力を身につけるためです。

そして、古典の基礎文法を2年生の夏休み前には完成しておきたいです。

くわえて、社会については2年間に一周はしておきたいです。学校によっては2年間かけて、教科書を一周する学校もありますが、それでは遅い、あるいは3年生がかなりきつくなります。

英語・古典・社会の基礎をできるだけ早期身につけることです。

また現代文については漢検準2級以上取得を目安に漢字の勉強をしつつ、アシストが提供するプロ講師による現代文の授業を取っていただくのがおすすめです。

#### ・高校生の理系対策

理系に進まれる場合は、文系以上に早く進路を決めておく必要があります。

というのも数Ⅲ(C)がスケジュール的にかなりきついです。

大学受験は一般試験が2月にあります。

ということは、1年生のときに1・A、2年生で2・B、3年生で3・(C)とやっている間に合いません。

特に神大以上を目指す場合は1・Aを高1の1学期くらいで終わって、2学期に2・Bに進む必要があります。

実際のところ東以上の高校はそれくらいもスピードで進みます。

先にお話しましたが、中高一貫校では中3で数学は高校分野にはいってきませんが、何のためかという理系に進んだ場合、高2までに数Ⅲ・(C)のほとんどを終わるためです。

アシストの考える良い授業とは

当然、生徒のやる気があがって成績があがって、志望校に合格するのが良い授業です。

しかしそれはあまりに抽象的な答えです。

ここでは個別指導塾におけるよくある誤解をお話しておきたいと思います。

・先生（講師）の教えている時間が長い授業が、成績が上がる授業とはかぎらない。

基本的に個別指導の良い授業は、講師が話している時間が短くて、生徒がペンを動かしている時間が長い授業が良い授業です。

生徒の多くは解き方や答えをすぐに知りたがります。

しかし大事なことは考えることや、勉強の仕方を学ぶことです。

講師はポイントだけ話して、生徒がペンを動かしている授業が良い授業です。

ただし例外もあります。たとえば高3の難しい数学や、英語の長文、さらに中学受験の国語などです。そういった授業は予め生徒が自習や宿題で解いてきて、講師の解説を聞いたり、わからないところを質問する授業になります。

このような授業は講師が話している時間が長くならざるを得ません。

しかし、平均レベルの中学生の授業はむしろ生徒がペンを動かしている時間が長い授業の方がいい授業です。

・通塾しているだけでは成績はあがらない

例えば週1回80分、宿題もなし。

こういう授業で結果がでるのは公立中学校の平均点以下の成績です。

基本的に成績が上位層の生徒、あるいは学年があがるほど、塾にきていないときの勉強法が大事になってきます。

たとえば、週1回80分の勉強で合格できる大学などありませんし、それで合格できるなら通塾の必要はありません。

アシストは自習スペースは営業時間中はいつでも利用できます。

また、補講も原則無料で行っています。

最低限度の宿題はもちろん、塾以外の勉強も行っただきます。

特に中学受験生は授業以外の時間もしっかりと宿題の指示をいたしますので、自習スペースで行っていただき、わからないところはいつでも質問にお答えします。

- ・小中学生はしかります。高校生はしかりません。

個別指導塾の多くは集団授業ほど叱りません。

しかし、アシストは態度の悪い生徒や宿題をしない生徒は叱ります。

とくに中学生や中学受験生は集団塾のように叱ります。

場合によっては「帰れ。」とまでいいます。

当塾では補講も可能な限り無料でさせていただいております。そして自習スペースも提供しています。

よってまじめに勉強したい生徒に迷惑のかかる行為や宿題をしない生徒はしかります。

ただし、単にしかるだけでなく、可能な限り補講に呼びます。

一方高校生はしかりません。

勉強のやり方はお伝えいたしますが、やる気が云々という生徒さんは、まずはやる気になってからきてください。

- ・コピー機、ネット環境は無料で使用できます。

学校のプリント、塾の教材などのコピーは無料をご利用いただけます。

また最近ではデータでの課題提出や学校から解答を送られてくる場合も多いですが、wifiも無料で開放しております。

- ・自習スペース
- ・中学生はいつでも5科目質問可能。(高校生は科目によります)
- ・補講も原則無料
- ・コピー機、wifiなどの施設も無料開放

アシストは勉強できる最高の環境を提供しております。

やる気のある生徒様はぜひともお待ちしております。

個別指導学院アシスト 学院長 前田敏秀

個別指導学院アシストの学習指導方針について

～志望校合格と点数アップのために～

はじめに

個別指導学院アシストの代表の前田敏秀と申します。

このたびは本小冊子をお読みくださりありがとうございます。

本学院は開講して三年目の学習塾になります。

私自身の経歴としましては、大手塾などを経験し、集団授業、個別指導、両方の指導に関わってきました。

対象の生徒様は公立小学校の生徒様、中学受験生、中学生、中高一貫生、高校生、大学受験生など様々です。

多くの塾様は公立の中学校の専門の塾様が多いですが、地域密着の塾としては、大学受験を一つのゴールとして、受験にかかわる総合的なアシストをさせていただいております。

実際のところ、2023年9月現在におきましては、通われている生徒様も公立中学（蒲生中、董中など）は少なく、私立の中高一貫校の生徒様、および高校生の生徒様のほうが多いです。

この小冊子では現在における肌で感じている教育の現場の現状、及び問題点、そして、アシストの考えをお伝えいたします。

その上で、ご関心をおもちいただければ、ぜひともまずは個別説明会、体験授業にお越しくださいませ。

小学校、中学校、中高一貫校、高校における現場から見える学校の現状と課題、そしてアシストができる問題解決についてお話させていただきます。

## ・小学校の現状と問題点

今、小中学生の学力低下、特に読解力の低下が問題視されています。

実は、原因はわりとはっきりしていてスマホだと言われています。

読解力の低下については、アシストを開講する以前から長年感じている問題です。

国語における「読む力」との低下です。

国語とは日本語です。

国語が苦手な生徒さんは漫画すら読みません。小説や物語などはなおさらです。

また一般常識としての童話をしりません。「シンデレラ」「浦島太郎」「白雪姫」などの話を知らない生徒さんも多いです。

もし、小学生のお子さんをお持ちの保護者の方がこの冊子を読まれていれば、お子さんはそういった童話をお読みでしょうか？

ぜひ聞いてみることをおすすめします。

そして、どんなあらすじであったか聞いてみてください。

小学校の高学年でこたえることができなければ、国語力は黄色信号が点滅しています。

また小中学生全体の読む力が弱く、中1の平均的な国語の点数をとる生徒さんでも、小三レベルの国語の問題に苦戦する生徒さんも多いです。

読む力が弱い原因の一つが、長い文章を読むことに耐えられる集中力が続かないことです。

国語の苦手な生徒さんはA4くらいの問題が読めません。

集中力が続かないのです。

A4 というとこの冊子でここまでかいた文章量くらいです。

しかも実際には小学生向けですから、もっと大きな字で行間も開けて書いてありますので、A5 くらいの分量です。

この分量を読む集中力が続かないのです。

読めないというは2つの段階があります。

一つは文字通り読めなくて集中力が続かないので読むこと自体を投げ出すのです。

アシストでは、そういう場合は講師が声を出して読んで、生徒にあとに続いて声を出して読んでもらいます。

次の「読めない」の段階は文脈が読み取れるかどうかです。

具体的には文章ででてくる「これ」という指示語が的確に把握することができるかどうかです。

国語の苦手な生徒さんはこれできません。

今の例でいうと前の文の「これ」が『文章ででてくる「これ」という指示語が的確に把握すること』が読めない生徒さんも多いです。

特に中学受験では長い文章が出題されます。

イメージとしてはA3両面に文章ぎっしりくらいのイメージです。  
この長い文章を、集中力を途切れさせず、早的的確に読むことが課題になります。  
アシストでは問題を解くだけでなく、まずは生徒様によっては本を読むことに慣れてもらうこと、そして本を読むたのしさを知ってもらうことから始めます。

次に書く力の問題についてです。  
これは表面的にはなかなかわかりません。  
表面的に現れるのは「記述問題」が苦手程度です。  
ですから、小学校、中学校の間は大した問題として表面化していないだけのことです。  
なぜなら、記述問題の点数配分は小さく、極端な話、点数をとるためには記述問題にこだわるよりも、暗記問題をしっかりマスターしたほうが、点数が稼げるからです。  
しかし、高校生になってから、書く力が弱いことについて影響力が如実にでてきます。  
とくに英語で出てきます。  
英語と国語は言語学として表裏一体です。  
なぜなら英語を日本語訳にするときに国語としての書く力や読む力が求められるからです。  
英語の苦手な高校生は国語の書く力が弱いです。  
そもそも日本語の作文が苦手です。  
英語以前に日本語としておかしな文を書きます。  
具体的には英単語の意味を全部調べて、文法的な修飾、被修飾の関係を全部整理して、あとは多少表現を変えながら言葉を並び替えればいだけにも関わらず、それができないこともたくさんあります。

**アシストでは小学校のころから国語力アップを意識した指導をしています。**

次に、小学生における英語についてです。  
現在、小学校でも英語の授業が行われていますが、ほとんどの場合、全く身につかずに中学校のカリキュラムが進んでいます。  
生徒目線では小学校から中学校にあがって急に難しくなっているはずですが。  
**アシストでは小学校のうちに英検4級は取得することを推奨しています。**  
すると、中学校にあがっても、得意科目になっていくことでしょう。  
そのためにアシストでは通常週1回の料金で週2回分の個別指導を受講いただくことが可能です。

## ・ 中学受験について

アシストではご家庭の経済力に余裕があるのであれば中学受験をおすすめしています。

理由の一つが、公立中を卒業してからの国公立大、特に理系学部の受験が非常に難易度が高いからです。

ご自身が大学受験をされた保護者様も多いと思いますが、保護者の皆様の世代と比べると、理系分野については約1.5倍勉強する量が多くなっています。

そして、保護者様の世代よりも国公立大と関関同立の差が大きいです。

保護者様の世代であれば地方の国立よりも関関同立を選ばれた人も多かった世代ですが、時代は変化しています。

決して易しいわけではないですが、文系については、関関同立は保護者様の世代よりも易しくなっていると思います。

それは背景として少子化の問題があります。

一方、国公立大は難しくなっています。

その背景としましては、理系の勉強量が増えていることと、英語が難しくなっていることがあります。

理系の勉強量が増えているというのは前述のとおりですが、カリキュラムについて、もう少し具体的に申し上げます。

中高一貫校では公立にくらべて、おおよそ一年早くカリキュラムが進みます。

そして高2までに高校の範囲をほぼ修了し、高3は受験対策を行います。

英語は公立と比べて非常に早いというわけでもないですが、数学はどの私立中学も基本的に進むペースが早いです。

なぜかといいますと、高2までに、数学のカリキュラムを終わらせて、高3はひたすら復習と国公立の2次試験対策をする必要があるからです。

公立トップの文理学科に行く生徒でも、国公立大を目指す生徒は半分くらいは浪人します。

その理由の多くが、公立高校では2次試験対策が間に合わないからです。

理系の厳しさは国公立大だけではありません。

関関同立でも数学は公立中、公立高校にいくと時間的にかなり厳しいものになります。

次に英語です。

特に英語の配点が共通テストにおいて200点中、100点がリスニングです。

これはペーパーテストしかしたことがない生徒が、いきなり高3でリスニング対策をしても、なかなか点数はとれません。

よって、当塾でも推奨していますが、私立中学では英検、学校によってはTOEICを受験させることにより、リスニング対策を行います。

アシストでも英検対策を通じて、リスニング、スピーキング対策を行っています。

そして、中高一貫校で英語のいいところは、文法の授業とリーディングの授業を分けて行うことです。

公立は中高一貫校ほど文法をしっかりと学習しません。

そういう意味でもアシストでは学校以上に文法をしっかりと学習していただいています。

そして、公立中に通われている方が気を悪くされては申し訳ないですが、コロナ禍以降、内申点が高くつく傾向にあります。

私の知人で、とある私立高校の教師がいるのですが、公立中学で通知表オール5の生徒で、一番成績の良い生徒と悪い生徒で本番の500満点ペーパーテストが200点の差がついているそうです。

つまり内申点と実際の学力があっていないのです。

ですから、高校受験という目線では内申点が高いことはもちろん重要なのですが、一方、大学受験という目線では実態よりも内申点が高くなるので、大学受験で苦労するということが多々あります

そして、中学受験をおすすめする最大の理由は、あまりに授業態度が悪い生徒がまずいないことです。

私立中の授業においては、だれもが中学受験をクリアしているので、授業中に「まず座れ」「とりあえず後ろ向いて話すな。」という指導を先生がしているという話はききません。

公立中は残念ながらクラスによってはこれがありえます。

すると、勉強を真面目にしたい生徒の邪魔になります。

なお、アシストではそのような生徒さまは、申し訳ないですがご入塾できません。あるいは退塾いただきます。

## ・公立中学におけるアシストの英語対策

次に公立中学校についてのアシストの英語対策をお話します。

繰り返しですが、学習指導要領の改定から英語が難しくなっています。

具体的にいうと覚える英単語だけでも 1.5 倍になりました。

以前であれば、I am, you are を学習している時期に、I want to などの不定詞も形だけとはいえ授業で学習しています。

**多くの個別指導塾は週 1 回、80 分から 90 分くらいの授業で行っていますが、勉強する量が増えているのに、以前と同じことをして同じ様に成績があがるわけがありません。**

たしかに成績がアップする生徒もいます。

そういう生徒さんは平均よりもかなり上で、英語の基礎力がついている生徒さんです。

具体的にいいますと、英検 3 級を持っていると中学英語で根本的に躓くことはまずありません。

よって、アシストでは可能であれば中学 2 年、おそくとも中学 3 年の夏くらいまでに英検 3 級の取得をサポートします。

**そのために、週 1 回の授業料と無料とさせていただきます。**

おおくの個別指導塾では英語、数学の週 2 回をとっている人が多いですが、アシストでは英語 2 回、数学 1 回の週 3 回を推奨しています。(それで授業料は週 2 回と同じです。)

## ・勉強がとにかく苦手な生徒様

勉強がとにかく苦手な生徒さん、たとえば 500 点満点で 150 点以下の生徒様、そのような生徒さまもやる気のある方は歓迎です。

もし、学校の宿題もまともに出したことない生徒さんであれば、科目にとらわれずまずは学校の宿題を完成させることから始めます。(ただし、副教科は対象外です。)

一緒に頑張ることで、まずは宿題をやりどけることから始めましょう。

本番の点数よりも内申点で合格する学校選びをおすすめします。

まずは通知票オール 3 をめざします。

## ・5 科目の定期テスト対策

中学生につきましては、これは中高一貫校生も同じですが、定期テスト前などには普段受講していない、理科・社会などの補講も可能です。

その場合は、必ずしも 1:2 の授業はお約束できませんが、無料で補講としてのテスト対策もご希望であれば可能な限りさせていただきます。

## ・中高一貫校対策について

中高一貫校の生徒様については、学校ごとというより、先生ごとに授業内容を合わせる必要があります。

よって、塾の内容も生徒様にあわせた指導をいたします。

ところで、これから中学受験をご検討のかたに参考になればとおもいますが、いわゆる偏差値の高い中学校がレベルの高い授業をしているかといえば、実はそうでもありません。

例えば、この近隣の私立中学さんとして、常翔学園さん、大阪国際さん、開明さんとありますが、中学入試の難易度としては圧倒的に開明さんが高いです。しかし、授業進度や難易度が大阪国際さんと大きく違うかというとは実はそれほど差はないように思います。

中学受験の難易度としては、常翔学園さんのほうが大阪国際さんよりやや高いイメージですが、カリキュラムのスピードは大阪国際さんの方が早いです。(特に英語)

京阪沿線でいいますと、同志社香里さんはかなり特殊です。

社会、理科はほぼ完全にオリジナルのカリキュラムですし、英語についてもネイティブ感覚に近い先生が教えているので、いわゆる受験英語では教えないような文法も教えることがあります。

アシストではそのような場合、基本的に学校の先生に合わせて授業をしますが、補足説明も行います。

## ・中高一貫校の注意点

中高一貫校の注意点としては、高校受験がないので、わからなくなってもそのまま進学してしまうことです。

これも特に英語が注意です。

中高一貫校で高3になってから挽回したいという生徒さんもいらっしゃいますが、相当の努力が必要です。

実はアシストの一期生の生徒さんがそういう生徒さんでした。

高3の一学期に入塾いただきまして、Are you と Do you から復習しました。

つまり中一英語からの復習です。

毎日6時間位ずっと英語の勉強をしていました。

結果どうなったかというと桃山学院大学に合格しました。

**つまりやればできます。**

しかし、そもそも嫌いな科目であったから今までやっていなかったわけで相当の覚悟と努力が必要です。

## ・高校生、大学受験対策

原則として大学受験は関関同立合格、国公立志望の高2生まで、あるいは高3の予備校とのダブルスクールを想定しています。

私どもの指導方針として、大学受験を検討されているご家庭につきましては、高校選びの時点で大学受験意識した生徒様への進路指導および、保護者様への情報提供を行っています。

したがって、大学受験を意識しているご家庭につきましては、高校受験は一つの通過点として、高校受験の情報提供を行っています。

大学受験という観点で大阪近辺の高校選びを考えますと、東高校より下の偏差値ラインであれば、経済的に問題なければ私立高校を選んだほうがいいと思います。(すでに公立高校を選ばれた方は非常に恐縮ですが。)

その大きな理由は推薦枠です。

偏差値が同じ、いや、むしろ多少低くても私立のほうが、推薦枠が圧倒的に多いのです。

数年前、旭高校の教え子が評定で4.2もあったのに推薦がとれなかったということもあります。(一般で合格しましたが。)

個人的には公立学校の問題だと思っていますが、それが現実です。

## ・高校生の英語対策

アシストでは生徒様にあわせて授業をしますので、学校の補講として学校に合わせた授業をすることもできますし、学校のカリキュラムを無視して、大学受験対策の授業をすることも可能です。

基本的には中高一貫校の生徒さんは学校にあわせて授業をします。

しかし、高2以上で入塾された生徒さんや学校のカリキュラムが遅い場合、逆に早すぎる場合は、大学受験を意識した独自のカリキュラムで授業を行っています。

とくに高3生になると、学校のカリキュラムに合わせる意味があまりないので、原則、学校にあわせず大学受験対策を行います。

そして、高2までに英検2級を取得することを推奨しています。

英検2級を取得すれば大学によってはほぼ合格点をくれる大学もあります。

また、自分でも英語の勉強を進めることができる基礎力が身についている目安にもなります。

#### ・高校生の文系対策

産近甲龍以上の大学では多くの場合、英語、現代文、古文、社会の四科目受験になります。

摂南以下の大学や公募の一部は英語と現代文です。

つまり、産近甲龍以上を目指すか、それ以外かでやることが大きく変わります。

特に、旭高校クラスの生徒さんの場合、古典と社会が大きく負担になってきますので、高一からの通塾をおすすめします。

文理選択がまだでも、できるだけ早く英語の力を身につけるためです。

そして、古典の基礎文法を2年生の夏休み前には完成しておきたいです。

くわえて、社会については2年間に一周はしておきたいです。学校によっては2年間かけて、教科書を一周する学校もありますが、それでは遅い、あるいは3年生がかなりきつくなります。

英語・古典・社会の基礎をできるだけ早期身につけることです。

また現代文については漢検準2級以上取得を目安に漢字の勉強をしつつ、アシストが提供するプロ講師による現代文の授業を取っていただくのがおすすめです。

#### ・高校生の理系対策

理系に進まれる場合は、文系以上に早く進路を決めておく必要があります。

というのも数Ⅲ(C)がスケジュール的にかなりきついからです。

大学受験は一般試験が2月にあります。

ということは、1年生のときに1・A、2年生で2・B、3年生で3・(C)とやっている間に合いません。

特に神大以上を目指す場合は1・Aを高1の1学期くらいで終わって、2学期に2・Bに進む必要があります。

実際のところ東以上の高校はそれくらいもスピードで進みます。

先にお話しましたが、中高一貫校では中3で数学は高校分野にはいってきますが、何のためかというと理系に進んだ場合、高2までに数Ⅲ・(C)のほとんどを終わるためです。

アシストの考える良い授業とは

当然、生徒のやる気があがって成績があがって、志望校に合格するのが良い授業です。

しかしそれはあまりに抽象的な答えです。

ここでは個別指導塾におけるよくある誤解をお話しておきたいと思います。

・先生（講師）の教えている時間が長い授業が、成績が上がる授業とはかぎらない。

基本的に個別指導の良い授業は、講師が話している時間が短くて、生徒がペンを動かしている時間が長い授業が良い授業です。

生徒の多くは解き方や答えをすぐに知りたがります。

しかし大事なことは考えることや、勉強の仕方を学ぶことです。

講師はポイントだけ話して、生徒がペンを動かしている授業が良い授業です。

ただし例外もあります。たとえば高3の難しい数学や、英語の長文、さらに中学受験の国語などです。そういった授業は予め生徒が自習や宿題で解いてきて、講師の解説を聞いたり、わからないところを質問する授業になります。

このような授業は講師が話している時間が長くならざるを得ません。

しかし、平均レベルの中学生の授業はむしろ生徒がペンを動かしている時間が長い授業の方がいい授業です。

・通塾しているだけでは成績はあがらない

例えば週1回80分、宿題もなし。

こういう授業で結果がでるのは公立中学校の平均点以下の成績です。

基本的に成績が上位層の生徒、あるいは学年があがるほど、塾にきていないときの勉強法が大事になってきます。

たとえば、週1回80分の勉強で合格できる大学などありませんし、それで合格できるなら通塾の必要はありません。

アシストは自習スペースは営業時間中はいつでも利用できます。

また、補講も原則無料で行っています。

最低限度の宿題はもちろん、塾以外の勉強も行っただきます。

特に中学受験生は授業以外の時間もしっかりと宿題の指示をいたしますので、自習スペースで行っていただき、わからないところはいつでも質問にお答えします。

- ・小中学生はしかります。高校生はしかりません。

個別指導塾の多くは集団授業ほど叱りません。

しかし、アシストは態度の悪い生徒や宿題をしない生徒は叱ります。

とくに中学生や中学受験生は集団塾のように叱ります。

場合によっては「帰れ。」とまでいいます。

当塾では補講も可能な限り無料でさせていただいております。そして自習スペースも提供しています。

よってまじめに勉強したい生徒に迷惑のかかる行為や宿題をしない生徒はしかります。

ただし、単にしかるだけでなく、可能な限り補講に呼びます。

一方高校生はしかりません。

勉強のやり方はお伝えいたしますが、やる気が云々という生徒さんは、まずはやる気になってからきてください。

- ・コピー機、ネット環境は無料で使用できます。

学校のプリント、塾の教材などのコピーは無料をご利用いただけます。

また最近ではデータでの課題提出や学校から解答を送られてくる場合も多いですが、wifiも無料で開放しております。

- ・自習スペース
- ・中学生はいつでも5科目質問可能。(高校生は科目によります)
- ・補講も原則無料
- ・コピー機、wifiなどの施設も無料開放

アシストは勉強できる最高の環境を提供しております。

やる気のある生徒様はぜひともお待ちしております。

個別指導学院アシスト 学院長 前田敏秀

個別指導学院アシストの学習指導方針について

～志望校合格と点数アップのために～

はじめに

個別指導学院アシストの代表の前田敏秀と申します。

このたびは本小冊子をお読みくださりありがとうございます。

本学院は開講して三年目の学習塾になります。

私自身の経歴としましては、大手塾などを経験し、集団授業、個別指導、両方の指導に関わってきました。

対象の生徒様は公立小学校の生徒様、中学受験生、中学生、中高一貫生、高校生、大学受験生など様々です。

多くの塾様は公立の中学校の専門の塾様が多いですが、地域密着の塾としては、大学受験を一つのゴールとして、受験にかかわる総合的なアシストをさせていただいております。

実際のところ、2023年9月現在におきましては、通われている生徒様も公立中学（蒲生中、董中など）は少なく、私立の中高一貫校の生徒様、および高校生の生徒様のほうが多いです。

この小冊子では現在における肌で感じている教育の現場の現状、及び問題点、そして、アシストの考えをお伝えいたします。

その上で、ご関心をおもちいただければ、ぜひともまずは個別説明会、体験授業にお越しくださいませ。

小学校、中学校、中高一貫校、高校における現場から見える学校の現状と課題、そしてアシストができる問題解決についてお話させていただきます。

## ・小学校の現状と問題点

今、小中学生の学力低下、特に読解力の低下が問題視されています。

実は、原因はわりとはっきりしていてスマホだと言われています。

読解力の低下については、アシストを開講する以前から長年感じている問題です。

国語における「読む力」との低下です。

国語とは日本語です。

国語が苦手な生徒さんは漫画すら読みません。小説や物語などはなおさらです。

また一般常識としての童話をしりません。「シンデレラ」「浦島太郎」「白雪姫」などの話を知らない生徒さんも多いです。

もし、小学生のお子さんをお持ちの保護者の方がこの冊子を読まれていれば、お子さんはそういった童話をお読みでしょうか？

ぜひ聞いてみることをおすすめします。

そして、どんなあらすじであったか聞いてみてください。

小学校の高学年でこたえることができなければ、国語力は黄色信号が点滅しています。

また小中学生全体の読む力が弱く、中1の平均的な国語の点数をとる生徒さんでも、小三レベルの国語の問題に苦戦する生徒さんも多いです。

読む力が弱い原因の一つが、長い文章を読むことに耐えられる集中力が続かないことです。

国語の苦手な生徒さんはA4くらいの問題が読めません。

集中力が続かないのです。

A4 というとこの冊子でここまでかいた文章量くらいです。

しかも実際には小学生向けですから、もっと大きな字で行間も開けて書いてありますので、A5 くらいの分量です。

この分量を読む集中力が続かないのです。

読めないというは2つの段階があります。

一つは文字通り読めなくて集中力が続かないので読むこと自体を投げ出すのです。

アシストでは、そういう場合は講師が声を出して読んで、生徒にあとに続いて声を出して読んでもらいます。

次の「読めない」の段階は文脈が読み取れるかどうかです。

具体的には文章ででてくる「これ」という指示語が的確に把握することができるかどうかです。

国語の苦手な生徒さんはこれできません。

今の例でいうと前の文の「これ」が『文章でてくる「これ」という指示語が的確に把握すること』が読めない生徒さんも多いです。

特に中学受験では長い文章が出題されます。

イメージとしてはA3両面に文章ぎっしりくらいのイメージです。  
この長い文章を、集中力を途切れさせず、早的確実に読むことが課題になります。  
アシストでは問題を解くだけでなく、まずは生徒様によっては本を読むことに慣れてもらうこと、そして本を読むたのしさを知ってもらうことから始めます。

次に書く力の問題についてです。  
これは表面的にはなかなかわかりません。  
表面的に現れるのは「記述問題」が苦手程度です。  
ですから、小学校、中学校の間は大した問題として表面化していないだけのことです。  
なぜなら、記述問題の点数配分は小さく、極端な話、点数をとるためには記述問題にこだわるよりも、暗記問題をしっかりマスターしたほうが、点数が稼げるからです。  
しかし、高校生になってから、書く力が弱いことについて影響力が如実にでてきます。  
とくに英語で出てきます。  
英語と国語は言語学として表裏一体です。  
なぜなら英語を日本語訳にするときに国語としての書く力や読む力が求められるからです。  
英語の苦手な高校生は国語の書く力が弱いです。  
そもそも日本語の作文が苦手です。  
英語以前に日本語としておかしな文を書きます。  
具体的には英単語の意味を全部調べて、文法的な修飾、被修飾の関係を全部整理して、あとは多少表現を変えながら言葉を並び替えればいだけにも関わらず、それができないこともたくさんあります。

**アシストでは小学校のころから国語力アップを意識した指導をしています。**

次に、小学生における英語についてです。  
現在、小学校でも英語の授業が行われていますが、ほとんどの場合、全く身につかずに中学校のカリキュラムが進んでいます。  
生徒目線では小学校から中学校にあがって急に難しくなっているはずですが。  
**アシストでは小学校のうちに英検4級は取得することを推奨しています。**  
すると、中学校にあがっても、得意科目になっていくことでしょう。  
そのためにアシストでは通常週1回の料金で週2回分の個別指導を受講いただくことが可能です。

・ 中学受験について

アシストではご家庭の経済力に余裕があるのであれば中学受験をおすすめしています。

理由の一つが、公立中を卒業してからの国公立大、特に理系学部の受験が非常に難易度が高いからです。

ご自身が大学受験をされた保護者様も多いと思いますが、保護者の皆様の世代と比べると、理系分野については約1.5倍勉強する量が多くなっています。

そして、保護者様の世代よりも国公立大と関関同立の差が大きいです。

保護者様の世代であれば地方の国立よりも関関同立を選ばれた人も多かった世代ですが、時代は変化しています。

決して易しいわけではないですが、文系については、関関同立は保護者様の世代よりも易しくなっていると思います。

それは背景として少子化の問題があります。

一方、国公立大は難しくなっています。

その背景としましては、理系の勉強量が増えていることと、英語が難しくなっていることがあります。

理系の勉強量が増えているというのは前述のとおりですが、カリキュラムについて、もう少し具体的に申し上げます。

中高一貫校では公立にくらべて、おおよそ一年早くカリキュラムが進みます。

そして高2までに高校の範囲をほぼ修了し、高3は受験対策を行います。

英語は公立と比べて非常に早いというわけでもないですが、数学はどの私立中学も基本的に進むペースが早いです。

なぜかといいますと、高2までに、数学のカリキュラムを終わらせて、高3はひたすら復習と国公立の2次試験対策をする必要があるからです。

公立トップの文理学科に行く生徒でも、国公立大を目指す生徒は半分くらいは浪人します。

その理由の多くが、公立高校では2次試験対策が間に合わないからです。

理系の厳しさは国公立大だけではありません。

関関同立でも数学は公立中、公立高校にいくと時間的にかなり厳しいものになります。

次に英語です。

特に英語の配点が共通テストにおいて200点中、100点がリスニングです。

これはペーパーテストしかしたことがない生徒が、いきなり高3でリスニング対策をしても、なかなか点数はとれません。

よって、当塾でも推奨していますが、私立中学では英検、学校によってはTOEICを受験させることにより、リスニング対策を行います。

アシストでも英検対策を通じて、リスニング、スピーキング対策を行っています。

そして、中高一貫校で英語のいいところは、文法の授業とリーディングの授業を分けて行うことです。

公立は中高一貫校ほど文法をしっかりと学習しません。

そういう意味でもアシストでは学校以上に文法をしっかりと学習していただいています。

そして、公立中に通われている方が気を悪くされては申し訳ないですが、コロナ禍以降、内申点が高くつく傾向にあります。

私の知人で、とある私立高校の教師がいるのですが、公立中学で通知表オール5の生徒で、一番成績の良い生徒と悪い生徒で本番の500満点ペーパーテストが200点の差がついているそうです。

つまり内申点と実際の学力があっていないのです。

ですから、高校受験という目線では内申点が高いことはもちろん重要なのですが、一方、大学受験という目線では実態よりも内申点が高くなるので、大学受験で苦労するということが多々あります

そして、中学受験をおすすめする最大の理由は、あまりに授業態度が悪い生徒がまずいないことです。

私立中の授業においては、だれもが中学受験をクリアしているので、授業中に「まず座れ」「とりあえず後ろ向いて話すな。」という指導を先生がしているという話はききません。

公立中は残念ながらクラスによってはこれがありえます。

すると、勉強を真面目にしたい生徒の邪魔になります。

なお、アシストではそのような生徒さまは、申し訳ないですがご入塾できません。あるいは退塾いただきます。

## ・公立中学におけるアシストの英語対策

次に公立中学校についてのアシストの英語対策をお話します。

繰り返しですが、学習指導要領の改定から英語が難しくなっています。

具体的にいうと覚える英単語だけでも 1.5 倍になりました。

以前であれば、I am, you are を学習している時期に、I want to などの不定詞も形だけとはいえ授業で学習しています。

**多くの個別指導塾は週 1 回、80 分から 90 分くらいの授業で行っていますが、勉強する量が増えているのに、以前と同じことをして同じ様に成績があがるわけがありません。**

たしかに成績がアップする生徒もいます。

そういう生徒さんは平均よりもかなり上で、英語の基礎力がついている生徒さんです。

具体的にいいますと、英検 3 級を持っていると中学英語で根本的に躓くことはまずありません。

よって、アシストでは可能であれば中学 2 年、おそくとも中学 3 年の夏くらいまでに英検 3 級の取得をサポートします。

**そのために、週 1 回の授業料と無料とさせていただきます。**

おおくの個別指導塾では英語、数学の週 2 回をとっている人が多いですが、アシストでは英語 2 回、数学 1 回の週 3 回を推奨しています。(それで授業料は週 2 回と同じです。)

## ・勉強がとにかく苦手な生徒様

勉強がとにかく苦手な生徒さん、たとえば 500 点満点で 150 点以下の生徒様、そのような生徒さまもやる気のある方は歓迎です。

もし、学校の宿題もまともに出したことない生徒さんであれば、科目にとらわれずまずは学校の宿題を完成させることから始めます。(ただし、副教科は対象外です。)

一緒に頑張ることで、まずは宿題をやりどけることから始めましょう。

本番の点数よりも内申点で合格する学校選びをおすすめします。

まずは通知票オール 3 をめざします。

## ・5 科目の定期テスト対策

中学生につきましては、これは中高一貫校生も同じですが、定期テスト前などには普段受講していない、理科・社会などの補講も可能です。

その場合は、必ずしも 1:2 の授業はお約束できませんが、無料で補講としてのテスト対策もご希望であれば可能な限りさせていただきます。

## ・中高一貫校対策について

中高一貫校の生徒様については、学校ごとというより、先生ごとに授業内容を合わせる必要があります。

よって、塾の内容も生徒様にあわせた指導をいたします。

ところで、これから中学受験をご検討のかたに参考になればとおもいますが、いわゆる偏差値の高い中学校がレベルの高い授業をしているかといえば、実はそうでもありません。

例えば、この近隣の私立中学さんとして、常翔学園さん、大阪国際さん、開明さんとありますが、中学入試の難易度としては圧倒的に開明さんが高いです。しかし、授業進度や難易度が大阪国際さんと大きく違うかというとは実はそれほど差はないように思います。

中学受験の難易度としては、常翔学園さんのほうが大阪国際さんよりやや高いイメージですが、カリキュラムのスピードは大阪国際さんの方が早いです。(特に英語)

京阪沿線でいいますと、同志社香里さんはかなり特殊です。

社会、理科はほぼ完全にオリジナルのカリキュラムですし、英語についてもネイティブ感覚に近い先生が教えているので、いわゆる受験英語では教えないような文法も教えることがあります。

アシストではそのような場合、基本的に学校の先生に合わせて授業をしますが、補足説明も行います。

## ・中高一貫校の注意点

中高一貫校の注意点としては、高校受験がないので、わからなくなってもそのまま進学してしまうことです。

これも特に英語が注意です。

中高一貫校で高3になってから挽回したいという生徒さんもいらっしゃいますが、相当の努力が必要です。

実はアシストの一期生の生徒さんがそういう生徒さんでした。

高3の一学期に入塾いただきまして、Are you と Do you から復習しました。

つまり中一英語からの復習です。

毎日6時間位ずっと英語の勉強をしていました。

結果どうなったかというと桃山学院大学に合格しました。

**つまりやればできます。**

しかし、そもそも嫌いな科目であったから今までやっていなかったわけで相当の覚悟と努力が必要です。

## ・高校生、大学受験対策

原則として大学受験は関関同立合格、国公立志望の高2生まで、あるいは高3の予備校とのダブルスクールを想定しています。

私どもの指導方針として、大学受験を検討されているご家庭につきましては、高校選びの時点で大学受験意識した生徒様への進路指導および、保護者様への情報提供を行っています。

したがって、大学受験を意識しているご家庭につきましては、高校受験は一つの通過点として、高校受験の情報提供を行っています。

大学受験という観点で大阪近辺の高校選びを考えますと、東高校より下の偏差値ラインであれば、経済的に問題なければ私立高校を選んだほうがいいと思います。(すでに公立高校を選ばれた方は非常に恐縮ですが。)

その大きな理由は推薦枠です。

偏差値が同じ、いや、むしろ多少低くても私立のほうが、推薦枠が圧倒的に多いのです。

数年前、旭高校の教え子が評定で4.2もあったのに推薦がとれなかったということもあります。(一般で合格しましたが。)

個人的には公立学校の問題だと思っていますが、それが現実です。

## ・高校生の英語対策

アシストでは生徒様にあわせて授業をしますので、学校の補講として学校に合わせた授業をすることもできますし、学校のカリキュラムを無視して、大学受験対策の授業をすることも可能です。

基本的には中高一貫校の生徒さんは学校にあわせて授業をします。

しかし、高2以上で入塾された生徒さんや学校のカリキュラムが遅い場合、逆に早すぎる場合は、大学受験を意識した独自のカリキュラムで授業を行っています。

とくに高3生になると、学校のカリキュラムに合わせる意味があまりないので、原則、学校にあわせて大学受験対策を行います。

そして、高2までに英検2級を取得することを推奨しています。

英検2級を取得すれば大学によってはほぼ合格点をくれる大学もあります。

また、自分でも英語の勉強を進めることができる基礎力が身につけている目安にもなります。

#### ・高校生の文系対策

産近甲龍以上の大学では多くの場合、英語、現代文、古文、社会の四科目受験になります。

摂南以下の大学や公募の一部は英語と現代文です。

つまり、産近甲龍以上を目指すか、それ以外かでやることが大きく変わります。

特に、旭高校クラスの生徒さんの場合、古典と社会が大きく負担になってきますので、高一からの通塾をおすすめします。

文理選択がまだでも、できるだけ早く英語の力を身につけるためです。

そして、古典の基礎文法を2年生の夏休み前には完成しておきたいです。

くわえて、社会については2年間に一周はしておきたいです。学校によっては2年間かけて、教科書を一周する学校もありますが、それでは遅い、あるいは3年生がかなりきつくなります。

英語・古典・社会の基礎をできるだけ早期身につけることです。

また現代文については漢検準2級以上取得を目安に漢字の勉強をしつつ、アシストが提供するプロ講師による現代文の授業を取っていただくのがおすすめです。

#### ・高校生の理系対策

理系に進まれる場合は、文系以上に早く進路を決めておく必要があります。

というのも数Ⅲ(C)がスケジュール的にかなりきついです。

大学受験は一般試験が2月にあります。

ということは、1年生のときに1・A、2年生で2・B、3年生で3・(C)とやっている間に合いません。

特に神大以上を目指す場合は1・Aを高1の1学期くらいで終わって、2学期に2・Bに進む必要があります。

実際のところ東以上の高校はそれくらいもスピードで進みます。

先にお話しましたが、中高一貫校では中3で数学は高校分野にはいってきませんが、何のためかというと理系に進んだ場合、高2までに数Ⅲ・(C)のほとんどを終わるためです。

アシストの考える良い授業とは

当然、生徒のやる気があがって成績があがって、志望校に合格するのが良い授業です。

しかしそれはあまりに抽象的な答えです。

ここでは個別指導塾におけるよくある誤解をお話しておきたいと思います。

・先生（講師）の教えている時間が長い授業が、成績が上がる授業とはかぎらない。

基本的に個別指導の良い授業は、講師が話している時間が短くて、生徒がペンを動かしている時間が長い授業が良い授業です。

生徒の多くは解き方や答えをすぐに知りたがります。

しかし大事なことは考えることや、勉強の仕方を学ぶことです。

講師はポイントだけ話して、生徒がペンを動かしている授業が良い授業です。

ただし例外もあります。たとえば高3の難しい数学や、英語の長文、さらに中学受験の国語などです。そういった授業は予め生徒が自習や宿題で解いてきて、講師の解説を聞いたり、わからないところを質問する授業になります。

このような授業は講師が話している時間が長くならざるを得ません。

しかし、平均レベルの中学生の授業はむしろ生徒がペンを動かしている時間が長い授業の方がいい授業です。

・通塾しているだけでは成績はあがらない

例えば週1回80分、宿題もなし。

こういう授業で結果がでるのは公立中学校の平均点以下の成績です。

基本的に成績が上位層の生徒、あるいは学年があがるほど、塾にきていないときの勉強法が大事になってきます。

たとえば、週1回80分の勉強で合格できる大学などありませんし、それで合格できるなら通塾の必要はありません。

アシストは自習スペースは営業時間中はいつでも利用できます。

また、補講も原則無料で行っています。

最低限度の宿題はもちろん、塾以外の勉強も行っただきます。

特に中学受験生は授業以外の時間もしっかりと宿題の指示をいたしますので、自習スペースで行っていただき、わからないところはいつでも質問にお答えします。

- ・小中学生はしかります。高校生はしかりません。

個別指導塾の多くは集団授業ほど叱りません。

しかし、アシストは態度の悪い生徒や宿題をしない生徒は叱ります。

とくに中学生や中学受験生は集団塾のように叱ります。

場合によっては「帰れ。」とまでいいます。

当塾では補講も可能な限り無料でさせていただきます。そして自習スペースも提供しています。

よってまじめに勉強したい生徒に迷惑のかかる行為や宿題をしない生徒はしかります。

ただし、単にしかるだけでなく、可能な限り補講に呼びます。

一方高校生はしかりません。

勉強のやり方はお伝えいたしますが、やる気が云々という生徒さんは、まずはやる気になってからきてください。

- ・コピー機、ネット環境は無料で使用できます。

学校のプリント、塾の教材などのコピーは無料をご利用いただけます。

また最近ではデータでの課題提出や学校から解答を送られてくる場合も多いですが、wifiも無料で開放しております。

- ・自習スペース
- ・中学生はいつでも5科目質問可能。(高校生は科目によります)
- ・補講も原則無料
- ・コピー機、wifiなどの施設も無料開放

アシストは勉強できる最高の環境を提供しております。

やる気のある生徒様はぜひともお待ちしております。

個別指導学院アシスト 学院長 前田敏秀

個別指導学院アシストの学習指導方針について

～志望校合格と点数アップのために～

はじめに

個別指導学院アシストの代表の前田敏秀と申します。

このたびは本小冊子をお読みくださりありがとうございます。

本学院は開講して三年目の学習塾になります。

私自身の経歴としましては、大手塾などを経験し、集団授業、個別指導、両方の指導に関わってきました。

対象の生徒様は公立小学校の生徒様、中学受験生、中学生、中高一貫生、高校生、大学受験生など様々です。

多くの塾様は公立の中学校の専門の塾様が多いですが、地域密着の塾としては、大学受験を一つのゴールとして、受験にかかわる総合的なアシストをさせていただいております。

実際のところ、2023年9月現在におきましては、通われている生徒様も公立中学（蒲生中、董中など）は少なく、私立の中高一貫校の生徒様、および高校生の生徒様のほうが多いです。

この小冊子では現在における肌で感じている教育の現場の現状、及び問題点、そして、アシストの考えをお伝えいたします。

その上で、ご関心をおもちいただければ、ぜひともまずは個別説明会、体験授業にお越しくださいませ。

小学校、中学校、中高一貫校、高校における現場から見える学校の現状と課題、そしてアシストができる問題解決についてお話させていただきます。

## ・小学校の現状と問題点

今、小中学生の学力低下、特に読解力の低下が問題視されています。

実は、原因はわりとはっきりしていてスマホだと言われています。

読解力の低下については、アシストを開講する以前から長年感じている問題です。

国語における「読む力」との低下です。

国語とは日本語です。

国語が苦手な生徒さんは漫画すら読みません。小説や物語などはなおさらです。

また一般常識としての童話をしりません。「シンデレラ」「浦島太郎」「白雪姫」などの話を知らない生徒さんも多いです。

もし、小学生のお子さんをお持ちの保護者の方がこの冊子を読まれていれば、お子さんはそういった童話をお読みでしょうか？

ぜひ聞いてみることをおすすめします。

そして、どんなあらすじであったか聞いてみてください。

小学校の高学年でこたえることができなければ、国語力は黄色信号が点滅しています。

また小中学生全体の読む力が弱く、中1の平均的な国語の点数をとる生徒さんでも、小三レベルの国語の問題に苦戦する生徒さんも多いです。

読む力が弱い原因の一つが、長い文章を読むことに耐えられる集中力が続かないことです。

国語の苦手な生徒さんはA4くらいの問題が読めません。

集中力が続かないのです。

A4 というとこの冊子でここまでかいた文章量くらいです。

しかも実際には小学生向けですから、もっと大きな字で行間も開けて書いてありますので、A5 くらいの分量です。

この分量を読む集中力が続かないのです。

読めないというは2つの段階があります。

一つは文字通り読めなくて集中力が続かないので読むこと自体を投げ出すのです。

アシストでは、そういう場合は講師が声を出して読んで、生徒にあとに続いて声を出して読んでもらいます。

次の「読めない」の段階は文脈が読み取れるかどうかです。

具体的には文章ででてくる「これ」という指示語が的確に把握することができるかどうかです。

国語の苦手な生徒さんはこれできません。

今の例でいうと前の文の「これ」が『文章ででてくる「これ」という指示語が的確に把握すること』が読めない生徒さんも多いです。

特に中学受験では長い文章が出題されます。

イメージとしてはA3両面に文章ぎっしりくらいのイメージです。  
この長い文章を、集中力を途切れさせず、早的確実に読むことが課題になります。  
アシストでは問題を解くだけでなく、まずは生徒様によっては本を読むことに慣れてもらうこと、そして本を読むたのしさを知ってもらうことから始めます。

次に書く力の問題についてです。  
これは表面的にはなかなかわかりません。  
表面的に現れるのは「記述問題」が苦手程度です。  
ですから、小学校、中学校の間は大した問題として表面化していないだけのことです。  
なぜなら、記述問題の点数配分は小さく、極端な話、点数をとるためには記述問題にこだわるよりも、暗記問題をしっかりマスターしたほうが、点数が稼げるからです。  
しかし、高校生になってから、書く力が弱いことについて影響力が如実にでてきます。  
とくに英語で出てきます。  
英語と国語は言語学として表裏一体です。  
なぜなら英語を日本語訳にするときに国語としての書く力や読む力が求められるからです。  
英語の苦手な高校生は国語の書く力が弱いです。  
そもそも日本語の作文が苦手です。  
英語以前に日本語としておかしな文を書きます。  
具体的には英単語の意味を全部調べて、文法的な修飾、被修飾の関係を全部整理して、あとは多少表現を変えながら言葉を並び替えればいだけにも関わらず、それができないこともたくさんあります。

**アシストでは小学校のころから国語力アップを意識した指導をしています。**

次に、小学生における英語についてです。  
現在、小学校でも英語の授業が行われていますが、ほとんどの場合、全く身につかずに中学校のカリキュラムが進んでいます。  
生徒目線では小学校から中学校にあがって急に難しくなっているはずですが。  
**アシストでは小学校のうちに英検4級は取得することを推奨しています。**  
すると、中学校にあがっても、得意科目になっていくことでしょう。  
そのためにアシストでは通常週1回の料金で週2回分の個別指導を受講いただくことが可能です。

・ 中学受験について

アシストではご家庭の経済力に余裕があるのであれば中学受験をおすすめしています。

理由の一つが、公立中を卒業してからの国公立大、特に理系学部の受験が非常に難易度が高いからです。

ご自身が大学受験をされた保護者様も多いと思いますが、保護者の皆様の世代と比べると、理系分野については約1.5倍勉強する量が多くなっています。

そして、保護者様の世代よりも国公立大と関関同立の差が大きいです。

保護者様の世代であれば地方の国立よりも関関同立を選ばれた人も多かった世代ですが、時代は変化しています。

決して易しいわけではないですが、文系については、関関同立は保護者様の世代よりも易しくなっていると思います。

それは背景として少子化の問題があります。

一方、国公立大は難しくなっています。

その背景としましては、理系の勉強量が増えていることと、英語が難しくなっていることがあります。

理系の勉強量が増えているというのは前述のとおりですが、カリキュラムについて、もう少し具体的に申し上げます。

中高一貫校では公立にくらべて、おおよそ一年早くカリキュラムが進みます。

そして高2までに高校の範囲をほぼ修了し、高3は受験対策を行います。

英語は公立と比べて非常に早いというわけでもないですが、数学はどの私立中学も基本的に進むペースが早いです。

なぜかといいますと、高2までに、数学のカリキュラムを終わらせて、高3はひたすら復習と国公立の2次試験対策をする必要があるからです。

公立トップの文理学科に行く生徒でも、国公立大を目指す生徒は半分くらいは浪人します。

その理由の多くが、公立高校では2次試験対策が間に合わないからです。

理系の厳しさは国公立大だけではありません。

関関同立でも数学は公立中、公立高校にいくと時間的にかなり厳しいものになります。

次に英語です。

特に英語の配点が共通テストにおいて200点中、100点がリスニングです。

これはペーパーテストしかしたことがない生徒が、いきなり高3でリスニング対策をしても、なかなか点数はとれません。

よって、当塾でも推奨していますが、私立中学では英検、学校によってはTOEICを受験させることにより、リスニング対策を行います。

アシストでも英検対策を通じて、リスニング、スピーキング対策を行っています。

そして、中高一貫校で英語のいいところは、文法の授業とリーディングの授業を分けて行うことです。

公立は中高一貫校ほど文法をしっかりと学習しません。

そういう意味でもアシストでは学校以上に文法をしっかりと学習していただいています。

そして、公立中に通われている方が気を悪くされては申し訳ないですが、コロナ禍以降、内申点が高くつく傾向にあります。

私の知人で、とある私立高校の教師がいるのですが、公立中学で通知表オール5の生徒で、一番成績の良い生徒と悪い生徒で本番の500満点ペーパーテストが200点の差がついているそうです。

つまり内申点と実際の学力があっていないのです。

ですから、高校受験という目線では内申点が高いことはもちろん重要なのですが、一方、大学受験という目線では実態よりも内申点が高くなるので、大学受験で苦労するということが多々あります

そして、中学受験をおすすめする最大の理由は、あまりに授業態度が悪い生徒がまずいないことです。

私立中の授業においては、だれもが中学受験をクリアしているので、授業中に「まず座れ」「とりあえず後ろ向いて話すな。」という指導を先生がしているという話はききません。

公立中は残念ながらクラスによってはこれがありえます。

すると、勉強を真面目にしたい生徒の邪魔になります。

なお、アシストではそのような生徒さまは、申し訳ないですがご入塾できません。あるいは退塾いただきます。

## ・公立中学におけるアシストの英語対策

次に公立中学校についてのアシストの英語対策をお話します。

繰り返しですが、学習指導要領の改定から英語が難しくなっています。

具体的にいうと覚える英単語だけでも 1.5 倍になりました。

以前であれば、I am, you are を学習している時期に、I want to などの不定詞も形だけとはいえ授業で学習しています。

**多くの個別指導塾は週 1 回、80 分から 90 分くらいの授業で行っていますが、勉強する量が増えているのに、以前と同じことをして同じ様に成績があがるわけがありません。**

たしかに成績がアップする生徒もいます。

そういう生徒さんは平均よりもかなり上で、英語の基礎力がついている生徒さんです。

具体的にいいますと、英検 3 級を持っていると中学英語で根本的に躓くことはまずありません。

よって、アシストでは可能であれば中学 2 年、おそくとも中学 3 年の夏くらいまでに英検 3 級の取得をサポートします。

**そのために、週 1 回の授業料と無料とさせていただきます。**

おおくの個別指導塾では英語、数学の週 2 回をとっている人が多いですが、アシストでは英語 2 回、数学 1 回の週 3 回を推奨しています。(それで授業料は週 2 回と同じです。)

## ・勉強がとにかく苦手な生徒様

勉強がとにかく苦手な生徒さん、たとえば 500 点満点で 150 点以下の生徒様、そのような生徒さまもやる気のある方は歓迎です。

もし、学校の宿題もまともに出したことない生徒さんであれば、科目にとらわれずまずは学校の宿題を完成させることから始めます。(ただし、副教科は対象外です。)

一緒に頑張ることで、まずは宿題をやりどけることから始めましょう。

本番の点数よりも内申点で合格する学校選びをおすすめします。

まずは通知票オール 3 をめざします。

## ・5 科目の定期テスト対策

中学生につきましては、これは中高一貫校生も同じですが、定期テスト前などには普段受講していない、理科・社会などの補講も可能です。

その場合は、必ずしも 1:2 の授業はお約束できませんが、無料で補講としてのテスト対策もご希望であれば可能な限りさせていただきます。

## ・中高一貫校対策について

中高一貫校の生徒様については、学校ごとというより、先生ごとに授業内容を合わせる必要があります。

よって、塾の内容も生徒様にあわせた指導をいたします。

ところで、これから中学受験をご検討のかたに参考になればとおもいますが、いわゆる偏差値の高い中学校がレベルの高い授業をしているかといえば、実はそうでもありません。

例えば、この近隣の私立中学さんとして、常翔学園さん、大阪国際さん、開明さんとありますが、中学入試の難易度としては圧倒的に開明さんが高いです。しかし、授業進度や難易度が大阪国際さんと大きく違うかというとは実はそれほど差はないように思います。

中学受験の難易度としては、常翔学園さんのほうが大阪国際さんよりやや高いイメージですが、カリキュラムのスピードは大阪国際さんの方が早いです。(特に英語)

京阪沿線でいいますと、同志社香里さんはかなり特殊です。

社会、理科はほぼ完全にオリジナルのカリキュラムですし、英語についてもネイティブ感覚に近い先生が教えているので、いわゆる受験英語では教えないような文法も教えることがあります。

アシストではそのような場合、基本的に学校の先生に合わせて授業をしますが、補足説明も行います。

## ・中高一貫校の注意点

中高一貫校の注意点としては、高校受験がないので、わからなくなってもそのまま進学してしまうことです。

これも特に英語が注意です。

中高一貫校で高3になってから挽回したいという生徒さんもいらっしゃいますが、相当の努力が必要です。

実はアシストの一期生の生徒さんがそういう生徒さんでした。

高3の一学期に入塾いただきまして、Are you と Do you から復習しました。

つまり中一英語からの復習です。

毎日6時間位ずっと英語の勉強をしていました。

結果どうなったかというと桃山学院大学に合格しました。

**つまりやればできます。**

しかし、そもそも嫌いな科目であったから今までやっていなかったわけで相当の覚悟と努力が必要です。

## ・高校生、大学受験対策

原則として大学受験は関関同立合格、国公立志望の高2生まで、あるいは高3の予備校とのダブルスクールを想定しています。

私どもの指導方針として、大学受験を検討されているご家庭につきましては、高校選びの時点で大学受験意識した生徒様への進路指導および、保護者様への情報提供を行っています。

したがって、大学受験を意識しているご家庭につきましては、高校受験は一つの通過点として、高校受験の情報提供を行っています。

大学受験という観点で大阪近辺の高校選びを考えますと、東高校より下の偏差値ラインであれば、経済的に問題なければ私立高校を選んだほうがいいと思います。(すでに公立高校を選ばれた方は非常に恐縮ですが。)

その大きな理由は推薦枠です。

偏差値が同じ、いや、むしろ多少低くても私立のほうが、推薦枠が圧倒的に多いのです。

数年前、旭高校の教え子が評定で4.2もあったのに推薦がとれなかったということもあります。(一般で合格しましたが。)

個人的には公立学校の問題だと思っていますが、それが現実です。

## ・高校生の英語対策

アシストでは生徒様にあわせて授業をしますので、学校の補講として学校に合わせた授業をすることもできますし、学校のカリキュラムを無視して、大学受験対策の授業をすることも可能です。

基本的には中高一貫校の生徒さんは学校にあわせて授業をします。

しかし、高2以上で入塾された生徒さんや学校のカリキュラムが遅い場合、逆に早すぎる場合は、大学受験を意識した独自のカリキュラムで授業を行っています。

とくに高3生になると、学校のカリキュラムに合わせる意味があまりないので、原則、学校にあわせず大学受験対策を行います。

そして、高2までに英検2級を取得することを推奨しています。

英検2級を取得すれば大学によってはほぼ合格点をくれる大学もあります。

また、自分でも英語の勉強を進めることができる基礎力が身につけている目安にもなります。

#### ・高校生の文系対策

産近甲龍以上の大学では多くの場合、英語、現代文、古文、社会の四科目受験になります。

摂南以下の大学や公募の一部は英語と現代文です。

つまり、産近甲龍以上を目指すか、それ以外かでやることが大きく変わります。

特に、旭高校クラスの生徒さんの場合、古典と社会が大きく負担になってきますので、高一からの通塾をおすすめします。

文理選択がまだでも、できるだけ早く英語の力を身につけるためです。

そして、古典の基礎文法を2年生の夏休み前には完成しておきたいです。

くわえて、社会については2年間に一周はしておきたいです。学校によっては2年間かけて、教科書を一周する学校もありますが、それでは遅い、あるいは3年生がかなりきつくなります。

英語・古典・社会の基礎をできるだけ早期身につけることです。

また現代文については漢検準2級以上取得を目安に漢字の勉強をしつつ、アシストが提供するプロ講師による現代文の授業を取っていただくのがおすすめです。

#### ・高校生の理系対策

理系に進まれる場合は、文系以上に早く進路を決めておく必要があります。

というのも数Ⅲ(C)がスケジュール的にかなりきついです。

大学受験は一般試験が2月にあります。

ということは、1年生のときに1・A、2年生で2・B、3年生で3・(C)とやっている間に合いません。

特に神大以上を目指す場合は1・Aを高1の1学期くらいで終わって、2学期に2・Bに進む必要があります。

実際のところ東以上の高校はそれくらいもスピードで進みます。

先にお話しましたが、中高一貫校では中3で数学は高校分野にはいってきますが、何のためかというと理系に進んだ場合、高2までに数Ⅲ・(C)のほとんどを終わるためです。

アシストの考える良い授業とは

当然、生徒のやる気があがって成績があがって、志望校に合格するのが良い授業です。

しかしそれはあまりに抽象的な答えです。

ここでは個別指導塾におけるよくある誤解をお話しておきたいと思います。

・先生（講師）の教えている時間が長い授業が、成績が上がる授業とはかぎらない。

基本的に個別指導の良い授業は、講師が話している時間が短くて、生徒がペンを動かしている時間が長い授業が良い授業です。

生徒の多くは解き方や答えをすぐに知りたがります。

しかし大事なことは考えることや、勉強の仕方を学ぶことです。

講師はポイントだけ話して、生徒がペンを動かしている授業が良い授業です。

ただし例外もあります。たとえば高3の難しい数学や、英語の長文、さらに中学受験の国語などです。そういった授業は予め生徒が自習や宿題で解いてきて、講師の解説を聞いたり、わからないところを質問する授業になります。

このような授業は講師が話している時間が長くならざるを得ません。

しかし、平均レベルの中学生の授業はむしろ生徒がペンを動かしている時間が長い授業の方がいい授業です。

・通塾しているだけでは成績はあがらない

例えば週1回80分、宿題もなし。

こういう授業で結果がでるのは公立中学校の平均点以下の成績です。

基本的に成績が上位層の生徒、あるいは学年があがるほど、塾にきていないときの勉強法が大事になってきます。

たとえば、週1回80分の勉強で合格できる大学などありませんし、それで合格できるなら通塾の必要はありません。

アシストは自習スペースは営業時間中はいつでも利用できます。

また、補講も原則無料で行っています。

最低限度の宿題はもちろん、塾以外の勉強も行っただきます。

特に中学受験生は授業以外の時間もしっかりと宿題の指示をいたしますので、自習スペースで行っただき、わからないところはいつでも質問にお答えします。

- ・小中学生はしかります。高校生はしかりません。

個別指導塾の多くは集団授業ほど叱りません。

しかし、アシストは態度の悪い生徒や宿題をしない生徒は叱ります。

とくに中学生や中学受験生は集団塾のように叱ります。

場合によっては「帰れ。」とまでいいます。

当塾では補講も可能な限り無料でさせていただいております。そして自習スペースも提供しています。

よってまじめに勉強したい生徒に迷惑のかかる行為や宿題をしない生徒はしかります。

ただし、単にしかるだけでなく、可能な限り補講に呼びます。

一方高校生はしかりません。

勉強のやり方はお伝えいたしますが、やる気が云々という生徒さんは、まずはやる気になってからきてください。

- ・コピー機、ネット環境は無料で使用できます。

学校のプリント、塾の教材などのコピーは無料をご利用いただけます。

また最近ではデータでの課題提出や学校から解答を送られてくる場合も多いですが、wifiも無料で開放しております。

- ・自習スペース
- ・中学生はいつでも5科目質問可能。(高校生は科目によります)
- ・補講も原則無料
- ・コピー機、wifiなどの施設も無料開放

アシストは勉強できる最高の環境を提供しております。

やる気のある生徒様はぜひともお待ちしております。

個別指導学院アシスト 学院長 前田敏秀

個別指導学院アシストの学習指導方針について

～志望校合格と点数アップのために～

はじめに

個別指導学院アシストの代表の前田敏秀と申します。

このたびは本小冊子をお読みくださりありがとうございます。

本学院は開講して三年目の学習塾になります。

私自身の経歴としましては、大手塾などを経験し、集団授業、個別指導、両方の指導に関わってきました。

対象の生徒様は公立小学校の生徒様、中学受験生、中学生、中高一貫生、高校生、大学受験生など様々です。

多くの塾様は公立の中学校の専門の塾様が多いですが、地域密着の塾としては、大学受験を一つのゴールとして、受験にかかわる総合的なアシストをさせていただいております。

実際のところ、2023年9月現在におきましては、通われている生徒様も公立中学（蒲生中、董中など）は少なく、私立の中高一貫校の生徒様、および高校生の生徒様のほうが多いです。

この小冊子では現在における肌で感じている教育の現場の現状、及び問題点、そして、アシストの考えをお伝えいたします。

その上で、ご関心をおもちいただければ、ぜひともまずは個別説明会、体験授業にお越しくださいませ。

小学校、中学校、中高一貫校、高校における現場から見える学校の現状と課題、そしてアシストができる問題解決についてお話させていただきます。

## ・小学校の現状と問題点

今、小中学生の学力低下、特に読解力の低下が問題視されています。

実は、原因はわりとはっきりしていてスマホだと言われています。

読解力の低下については、アシストを開講する以前から長年感じている問題です。

国語における「読む力」との低下です。

国語とは日本語です。

国語が苦手な生徒さんは漫画すら読みません。小説や物語などはなおさらです。

また一般常識としての童話をしりません。「シンデレラ」「浦島太郎」「白雪姫」などの話を知らない生徒さんも多いです。

もし、小学生のお子さんをお持ちの保護者の方がこの冊子を読まれていれば、お子さんはそういった童話をお読みでしょうか？

ぜひ聞いてみることをおすすめします。

そして、どんなあらすじであったか聞いてみてください。

小学校の高学年でこたえることができなければ、国語力は黄色信号が点滅しています。

また小中学生全体の読む力が弱く、中1の平均的な国語の点数をとる生徒さんでも、小三レベルの国語の問題に苦戦する生徒さんも多いです。

読む力が弱い原因の一つが、長い文章を読むことに耐えられる集中力が続かないことです。

国語の苦手な生徒さんはA4くらいの問題が読めません。

集中力が続かないのです。

A4 というとこの冊子でここまでかいた文章量くらいです。

しかも実際には小学生向けですから、もっと大きな字で行間も開けて書いてありますので、A5 くらいの分量です。

この分量を読む集中力が続かないのです。

読めないというは2つの段階があります。

一つは文字通り読めなくて集中力が続かないので読むこと自体を投げ出すのです。

アシストでは、そういう場合は講師が声を出して読んで、生徒にあとに続いて声を出して読んでもらいます。

次の「読めない」の段階は文脈が読み取れるかどうかです。

具体的には文章ででてくる「これ」という指示語が的確に把握することができるかどうかです。

国語の苦手な生徒さんはこれできません。

今の例でいうと前の文の「これ」が『文章ででてくる「これ」という指示語が的確に把握すること』が読めない生徒さんも多いです。

特に中学受験では長い文章が出題されます。

イメージとしてはA3両面に文章ぎっしりくらいのイメージです。  
この長い文章を、集中力を途切れさせず、早的確実に読むことが課題になります。  
アシストでは問題を解くだけでなく、まずは生徒様によっては本を読むことに慣れてもらうこと、そして本を読むたのしさを知ってもらうことから始めます。

次に書く力の問題についてです。  
これは表面的にはなかなかわかりません。  
表面的に現れるのは「記述問題」が苦手程度です。  
ですから、小学校、中学校の間は大した問題として表面化していないだけのことです。  
なぜなら、記述問題の点数配分は小さく、極端な話、点数をとるためには記述問題にこだわるよりも、暗記問題をしっかりマスターしたほうが、点数が稼げるからです。  
しかし、高校生になってから、書く力が弱いことについて影響力が如実にでてきます。  
とくに英語で出てきます。  
英語と国語は言語学として表裏一体です。  
なぜなら英語を日本語訳にするときに国語としての書く力や読む力が求められるからです。  
英語の苦手な高校生は国語の書く力が弱いです。  
そもそも日本語の作文が苦手です。  
英語以前に日本語としておかしな文を書きます。  
具体的には英単語の意味を全部調べて、文法的な修飾、被修飾の関係を全部整理して、あとは多少表現を変えながら言葉を並び替えればいいだけにも関わらず、それができないこともたくさんあります。

**アシストでは小学校のころから国語力アップを意識した指導をしています。**

次に、小学生における英語についてです。  
現在、小学校でも英語の授業が行われていますが、ほとんどの場合、全く身につかずに中学校のカリキュラムが進んでいます。  
生徒目線では小学校から中学校にあがって急に難しくなっているはずですが。  
**アシストでは小学校のうちに英検4級は取得することを推奨しています。**  
すると、中学校にあがっても、得意科目になっていくことでしょう。  
そのためにアシストでは通常週1回の料金で週2回分の個別指導を受講いただくことが可能です。

## ・ 中学受験について

アシストではご家庭の経済力に余裕があるのであれば中学受験をおすすめしています。

理由の一つが、公立中を卒業してからの国公立大、特に理系学部の受験が非常に難易度が高いからです。

ご自身が大学受験をされた保護者様も多いと思いますが、保護者の皆様の世代と比べると、理系分野については約1.5倍勉強する量が多くなっています。

そして、保護者様の世代よりも国公立大と関関同立の差が大きいです。

保護者様の世代であれば地方の国立よりも関関同立を選ばれた人も多かった世代ですが、時代は変化しています。

決して易しいわけではないですが、文系については、関関同立は保護者様の世代よりも易しくなっていると思います。

それは背景として少子化の問題があります。

一方、国公立大は難しくなっています。

その背景としましては、理系の勉強量が増えていることと、英語が難しくなっていることがあります。

理系の勉強量が増えているというのは前述のとおりですが、カリキュラムについて、もう少し具体的に申し上げます。

中高一貫校では公立にくらべて、おおよそ一年早くカリキュラムが進みます。

そして高2までに高校の範囲をほぼ修了し、高3は受験対策を行います。

英語は公立と比べて非常に早いというわけでもないですが、数学はどの私立中学も基本的に進むペースが早いです。

なぜかといいますと、高2までに、数学のカリキュラムを終わらせて、高3はひたすら復習と国公立の2次試験対策をする必要があるからです。

公立トップの文理学科に行く生徒でも、国公立大を目指す生徒は半分くらいは浪人します。

その理由の多くが、公立高校では2次試験対策が間に合わないからです。

理系の厳しさは国公立大だけではありません。

関関同立でも数学は公立中、公立高校にいくと時間的にかなり厳しいものになります。

次に英語です。

特に英語の配点が共通テストにおいて200点中、100点がリスニングです。

これはペーパーテストしかしたことがない生徒が、いきなり高3でリスニング対策をしても、なかなか点数はとれません。

よって、当塾でも推奨していますが、私立中学では英検、学校によってはTOEICを受験させることにより、リスニング対策を行います。

アシストでも英検対策を通じて、リスニング、スピーキング対策を行っています。

そして、中高一貫校で英語のいいところは、文法の授業とリーディングの授業を分けて行うことです。

公立は中高一貫校ほど文法をしっかりと学習しません。

そういう意味でもアシストでは学校以上に文法をしっかりと学習していただいています。

そして、公立中に通われている方が気を悪くされては申し訳ないですが、コロナ禍以降、内申点が高くつく傾向にあります。

私の知人で、とある私立高校の教師がいるのですが、公立中学で通知表オール5の生徒で、一番成績の良い生徒と悪い生徒で本番の500満点ペーパーテストが200点の差がついているそうです。

つまり内申点と実際の学力があっていないのです。

ですから、高校受験という目線では内申点が高いことはもちろん重要なのですが、一方、大学受験という目線では実態よりも内申点が高くなるので、大学受験で苦労するということが多々あります

そして、中学受験をおすすめする最大の理由は、あまりに授業態度が悪い生徒がまずいないことです。

私立中の授業においては、だれもが中学受験をクリアしているので、授業中に「まず座れ」「とりあえず後ろ向いて話すな。」という指導を先生がしているという話はききません。

公立中は残念ながらクラスによってはこれがありえます。

すると、勉強を真面目にしたい生徒の邪魔になります。

なお、アシストではそのような生徒さまは、申し訳ないですがご入塾できません。あるいは退塾いただきます。

## ・公立中学におけるアシストの英語対策

次に公立中学校についてのアシストの英語対策をお話します。

繰り返しですが、学習指導要領の改定から英語が難しくなっています。

具体的にいうと覚える英単語だけでも 1.5 倍になりました。

以前であれば、I am, you are を学習している時期に、I want to などの不定詞も形だけとはいえ授業で学習しています。

**多くの個別指導塾は週 1 回、80 分から 90 分くらいの授業で行っていますが、勉強する量が増えているのに、以前と同じことをして同じ様に成績があがるわけがありません。**

たしかに成績がアップする生徒もいます。

そういう生徒さんは平均よりもかなり上で、英語の基礎力がついている生徒さんです。

具体的にいいますと、英検 3 級を持っていると中学英語で根本的に躓くことはまずありません。

よって、アシストでは可能であれば中学 2 年、おそくとも中学 3 年の夏くらいまでに英検 3 級の取得をサポートします。

**そのために、週 1 回の授業料と無料とさせていただきます。**

おおくの個別指導塾では英語、数学の週 2 回をとっている人が多いですが、アシストでは英語 2 回、数学 1 回の週 3 回を推奨しています。(それで授業料は週 2 回と同じです。)

## ・勉強がとにかく苦手な生徒様

勉強がとにかく苦手な生徒さん、たとえば 500 点満点で 150 点以下の生徒様、そのような生徒さまもやる気のある方は歓迎です。

もし、学校の宿題もまともに出したことない生徒さんであれば、科目にとらわれずまずは学校の宿題を完成させることから始めます。(ただし、副教科は対象外です。)

一緒に頑張ることで、まずは宿題をやりどけることから始めましょう。

本番の点数よりも内申点で合格する学校選びをおすすめします。

まずは通知票オール 3 をめざします。

## ・5 科目の定期テスト対策

中学生につきましては、これは中高一貫校生も同じですが、定期テスト前などには普段受講していない、理科・社会などの補講も可能です。

その場合は、必ずしも 1:2 の授業はお約束できませんが、無料で補講としてのテスト対策もご希望であれば可能な限りさせていただきます。

## ・中高一貫校対策について

中高一貫校の生徒様については、学校ごとというより、先生ごとに授業内容を合わせる必要があります。

よって、塾の内容も生徒様にあわせた指導をいたします。

ところで、これから中学受験をご検討のかたに参考になればとおもいますが、いわゆる偏差値の高い中学校がレベルの高い授業をしているかといえば、実はそうでもありません。

例えば、この近隣の私立中学さんとして、常翔学園さん、大阪国際さん、開明さんとありますが、中学入試の難易度としては圧倒的に開明さんが高いです。しかし、授業進度や難易度が大阪国際さんと大きく違うかというとは実はそれほど差はないように思います。

中学受験の難易度としては、常翔学園さんのほうが大阪国際さんよりやや高いイメージですが、カリキュラムのスピードは大阪国際さんの方が早いです。(特に英語)

京阪沿線でいいますと、同志社香里さんはかなり特殊です。

社会、理科はほぼ完全にオリジナルのカリキュラムですし、英語についてもネイティブ感覚に近い先生が教えているので、いわゆる受験英語では教えないような文法も教えることがあります。

アシストではそのような場合、基本的に学校の先生に合わせて授業をしますが、補足説明も行います。

## ・中高一貫校の注意点

中高一貫校の注意点としては、高校受験がないので、わからなくなってもそのまま進学してしまうことです。

これも特に英語が注意です。

中高一貫校で高3になってから挽回したいという生徒さんもいらっしゃいますが、相当の努力が必要です。

実はアシストの一期生の生徒さんがそういう生徒さんでした。

高3の一学期に入塾いただきまして、Are you と Do you から復習しました。

つまり中一英語からの復習です。

毎日6時間位ずっと英語の勉強をしていました。

結果どうなったかというと桃山学院大学に合格しました。

**つまりやればできます。**

しかし、そもそも嫌いな科目であったから今までやっていなかったわけで相当の覚悟と努力が必要です。

## ・高校生、大学受験対策

原則として大学受験は関関同立合格、国公立志望の高2生まで、あるいは高3の予備校とのダブルスクールを想定しています。

私どもの指導方針として、大学受験を検討されているご家庭につきましては、高校選びの時点で大学受験意識した生徒様への進路指導および、保護者様への情報提供を行っています。

したがって、大学受験を意識しているご家庭につきましては、高校受験は一つの通過点として、高校受験の情報提供を行っています。

大学受験という観点で大阪近辺の高校選びを考えますと、東高校より下の偏差値ラインであれば、経済的に問題なければ私立高校を選んだほうがいいと思います。(すでに公立高校を選ばれた方は非常に恐縮ですが。)

その大きな理由は推薦枠です。

偏差値が同じ、いや、むしろ多少低くても私立のほうが、推薦枠が圧倒的に多いのです。

数年前、旭高校の教え子が評定で4.2もあったのに推薦がとれなかったということもあります。(一般で合格しましたが。)

個人的には公立学校の問題だと思っていますが、それが現実です。

## ・高校生の英語対策

アシストでは生徒様にあわせて授業をしますので、学校の補講として学校に合わせた授業をすることもできますし、学校のカリキュラムを無視して、大学受験対策の授業をすることも可能です。

基本的には中高一貫校の生徒さんは学校にあわせて授業をします。

しかし、高2以上で入塾された生徒さんや学校のカリキュラムが遅い場合、逆に早すぎる場合は、大学受験を意識した独自のカリキュラムで授業を行っています。

とくに高3生になると、学校のカリキュラムに合わせる意味があまりないので、原則、学校にあわせて大学受験対策を行います。

そして、高2までに英検2級を取得することを推奨しています。

英検2級を取得すれば大学によってはほぼ合格点をくれる大学もあります。

また、自分でも英語の勉強を進めることができる基礎力が身についている目安にもなります。

#### ・高校生の文系対策

産近甲龍以上の大学では多くの場合、英語、現代文、古文、社会の四科目受験になります。

摂南以下の大学や公募の一部は英語と現代文です。

つまり、産近甲龍以上を目指すか、それ以外かでやることが大きく変わります。

特に、旭高校クラスの生徒さんの場合、古典と社会が大きく負担になってきますので、高一からの通塾をおすすめします。

文理選択がまだでも、できるだけ早く英語の力を身につけるためです。

そして、古典の基礎文法を2年生の夏休み前には完成しておきたいです。

くわえて、社会については2年間に一周はしておきたいです。学校によっては2年間かけて、教科書を一周する学校もありますが、それでは遅い、あるいは3年生がかなりきつくなります。

英語・古典・社会の基礎をできるだけ早期身につけることです。

また現代文については漢検準2級以上取得を目安に漢字の勉強をしつつ、アシストが提供するプロ講師による現代文の授業を取っていただくのがおすすめです。

#### ・高校生の理系対策

理系に進まれる場合は、文系以上に早く進路を決めておく必要があります。

というのも数Ⅲ(C)がスケジュール的にかなりきついです。

大学受験は一般試験が2月にあります。

ということは、1年生のときに1・A、2年生で2・B、3年生で3・(C)とやっている間に合いません。

特に神大以上を目指す場合は1・Aを高1の1学期くらいで終わって、2学期に2・Bに進む必要があります。

実際のところ東以上の高校はそれくらいもスピードで進みます。

先にお話しましたが、中高一貫校では中3で数学は高校分野にはいってきませんが、何のためかという理系に進んだ場合、高2までに数Ⅲ・(C)のほとんどを終わるためです。

アシストの考える良い授業とは

当然、生徒のやる気があがって成績があがって、志望校に合格するのが良い授業です。

しかしそれはあまりに抽象的な答えです。

ここでは個別指導塾におけるよくある誤解をお話しておきたいと思います。

・先生（講師）の教えている時間が長い授業が、成績が上がる授業とはかぎらない。

基本的に個別指導の良い授業は、講師が話している時間が短くて、生徒がペンを動かしている時間が長い授業が良い授業です。

生徒の多くは解き方や答えをすぐに知りたがります。

しかし大事なことは考えることや、勉強の仕方を学ぶことです。

講師はポイントだけ話して、生徒がペンを動かしている授業が良い授業です。

ただし例外もあります。たとえば高3の難しい数学や、英語の長文、さらに中学受験の国語などです。そういった授業は予め生徒が自習や宿題で解いてきて、講師の解説を聞いたり、わからないところを質問する授業になります。

このような授業は講師が話している時間が長くならざるを得ません。

しかし、平均レベルの中学生の授業はむしろ生徒がペンを動かしている時間が長い授業の方がいい授業です。

・通塾しているだけでは成績はあがらない

例えば週1回80分、宿題もなし。

こういう授業で結果がでるのは公立中学校の平均点以下の成績です。

基本的に成績が上位層の生徒、あるいは学年があがるほど、塾にきていないときの勉強法が大事になってきます。

たとえば、週1回80分の勉強で合格できる大学などありませんし、それで合格できるなら通塾の必要はありません。

アシストは自習スペースは営業時間中はいつでも利用できます。

また、補講も原則無料で行っています。

最低限度の宿題はもちろん、塾以外の勉強も行っただきます。

特に中学受験生は授業以外の時間もしっかりと宿題の指示をいたしますので、自習スペースで行っただき、わからないところはいつでも質問にお答えします。

- ・小中学生はしかります。高校生はしかりません。

個別指導塾の多くは集団授業ほど叱りません。

しかし、アシストは態度の悪い生徒や宿題をしない生徒は叱ります。

とくに中学生や中学受験生は集団塾のように叱ります。

場合によっては「帰れ。」とまでいいます。

当塾では補講も可能な限り無料でさせていただいております。そして自習スペースも提供しています。

よってまじめに勉強したい生徒に迷惑のかかる行為や宿題をしない生徒はしかります。

ただし、単にしかるだけでなく、可能な限り補講に呼びます。

一方高校生はしかりません。

勉強のやり方はお伝えいたしますが、やる気が云々という生徒さんは、まずはやる気になってからきてください。

- ・コピー機、ネット環境は無料で使用できます。

学校のプリント、塾の教材などのコピーは無料をご利用いただけます。

また最近ではデータでの課題提出や学校から解答を送られてくる場合も多いですが、wifiも無料で開放しております。

- ・自習スペース
- ・中学生はいつでも5科目質問可能。(高校生は科目によります)
- ・補講も原則無料
- ・コピー機、wifiなどの施設も無料開放

アシストは勉強できる最高の環境を提供しております。

やる気のある生徒様はぜひともお待ちしております。

個別指導学院アシスト 学院長 前田敏秀

個別指導学院アシストの学習指導方針について

～志望校合格と点数アップのために～

はじめに

個別指導学院アシストの代表の前田敏秀と申します。

このたびは本小冊子をお読みくださりありがとうございます。

本学院は開講して三年目の学習塾になります。

私自身の経歴としましては、大手塾などを経験し、集団授業、個別指導、両方の指導に関わってきました。

対象の生徒様は公立小学校の生徒様、中学受験生、中学生、中高一貫生、高校生、大学受験生など様々です。

多くの塾様は公立の中学校の専門の塾様が多いですが、地域密着の塾としては、大学受験を一つのゴールとして、受験にかかわる総合的なアシストをさせていただいております。

実際のところ、2023年9月現在におきましては、通われている生徒様も公立中学（蒲生中、董中など）は少なく、私立の中高一貫校の生徒様、および高校生の生徒様のほうが多いです。

この小冊子では現在における肌で感じている教育の現場の現状、及び問題点、そして、アシストの考えをお伝えいたします。

その上で、ご関心をおもちいただければ、ぜひともまずは個別説明会、体験授業にお越しくださいませ。

小学校、中学校、中高一貫校、高校における現場から見える学校の現状と課題、そしてアシストができる問題解決についてお話させていただきます。

## ・小学校の現状と問題点

今、小中学生の学力低下、特に読解力の低下が問題視されています。

実は、原因はわりとはっきりしていてスマホだと言われています。

読解力の低下については、アシストを開講する以前から長年感じている問題です。

国語における「読む力」との低下です。

国語とは日本語です。

国語が苦手な生徒さんは漫画すら読みません。小説や物語などはなおさらです。

また一般常識としての童話をしりません。「シンデレラ」「浦島太郎」「白雪姫」などの話を知らない生徒さんも多いです。

もし、小学生のお子さんをお持ちの保護者の方がこの冊子を読まれていれば、お子さんはそういった童話をお読みでしょうか？

ぜひ聞いてみることをおすすめします。

そして、どんなあらすじであったか聞いてみてください。

小学校の高学年でこたえることができなければ、国語力は黄色信号が点滅しています。

また小中学生全体の読む力が弱く、中1の平均的な国語の点数をとる生徒さんでも、小三レベルの国語の問題に苦戦する生徒さんも多いです。

読む力が弱い原因の一つが、長い文章を読むことに耐えられる集中力が続かないことです。

国語の苦手な生徒さんはA4くらいの問題が読めません。

集中力が続かないのです。

A4 というとこの冊子でここまでかいた文章量くらいです。

しかも実際には小学生向けですから、もっと大きな字で行間も開けて書いてありますので、A5 くらいの分量です。

この分量を読む集中力が続かないのです。

読めないというは2つの段階があります。

一つは文字通り読めなくて集中力が続かないので読むこと自体を投げ出すのです。

アシストでは、そういう場合は講師が声を出して読んで、生徒にあとに続いて声を出して読んでもらいます。

次の「読めない」の段階は文脈が読み取れるかどうかです。

具体的には文章ででてくる「これ」という指示語が的確に把握することができるかどうかです。

国語の苦手な生徒さんはこれできません。

今の例でいうと前の文の「これ」が『文章ででてくる「これ」という指示語が的確に把握すること』が読めない生徒さんも多いです。

特に中学受験では長い文章が出題されます。

イメージとしてはA3両面に文章ぎっしりくらいのイメージです。  
この長い文章を、集中力を途切れさせず、早的的確に読むことが課題になります。  
アシストでは問題を解くだけでなく、まずは生徒様によっては本を読むことに慣れてもらうこと、そして本を読むたのしさを知ってもらうことから始めます。

次に書く力の問題についてです。  
これは表面的にはなかなかわかりません。  
表面的に現れるのは「記述問題」が苦手程度です。  
ですから、小学校、中学校の間は大した問題として表面化していないだけのことです。  
なぜなら、記述問題の点数配分は小さく、極端な話、点数をとるためには記述問題にこだわるよりも、暗記問題をしっかりマスターしたほうが、点数が稼げるからです。  
しかし、高校生になってから、書く力が弱いことについて影響力が如実にでてきます。  
とくに英語で出てきます。  
英語と国語は言語学として表裏一体です。  
なぜなら英語を日本語訳にするときに国語としての書く力や読む力が求められるからです。  
英語の苦手な高校生は国語の書く力が弱いです。  
そもそも日本語の作文が苦手です。  
英語以前に日本語としておかしな文を書きます。  
具体的には英単語の意味を全部調べて、文法的な修飾、被修飾の関係を全部整理して、あとは多少表現を変えながら言葉を並び替えればいいだけにも関わらず、それができないこともたくさんあります。

**アシストでは小学校のころから国語力アップを意識した指導をしています。**

次に、小学生における英語についてです。  
現在、小学校でも英語の授業が行われていますが、ほとんどの場合、全く身につかずに中学校のカリキュラムが進んでいます。  
生徒目線では小学校から中学校にあがって急に難しくなっているはずですが。  
**アシストでは小学校のうちに英検4級は取得することを推奨しています。**  
すると、中学校にあがっても、得意科目になっていくことでしょう。  
そのためにアシストでは通常週1回の料金で週2回分の個別指導を受講いただくことが可能です。

・ 中学受験について

アシストではご家庭の経済力に余裕があるのであれば中学受験をおすすめしています。

理由の一つが、公立中を卒業してからの国公立大、特に理系学部の受験が非常に難易度が高いからです。

ご自身が大学受験をされた保護者様も多いと思いますが、保護者の皆様の世代と比べると、理系分野については約1.5倍勉強する量が多くなっています。

そして、保護者様の世代よりも国公立大と関関同立の差が大きいです。

保護者様の世代であれば地方の国立よりも関関同立を選ばれた人も多かった世代ですが、時代は変化しています。

決して易しいわけではないですが、文系については、関関同立は保護者様の世代よりも易しくなっていると思います。

それは背景として少子化の問題があります。

一方、国公立大は難しくなっています。

その背景としましては、理系の勉強量が増えていることと、英語が難しくなっていることがあります。

理系の勉強量が増えているというのは前述のとおりですが、カリキュラムについて、もう少し具体的に申し上げます。

中高一貫校では公立にくらべて、おおよそ一年早くカリキュラムが進みます。

そして高2までに高校の範囲をほぼ修了し、高3は受験対策を行います。

英語は公立と比べて非常に早いというわけでもないですが、数学はどの私立中学も基本的に進むペースが早いです。

なぜかといいますと、高2までに、数学のカリキュラムを終わらせて、高3はひたすら復習と国公立の2次試験対策をする必要があるからです。

公立トップの文理学科に行く生徒でも、国公立大を目指す生徒は半分くらいは浪人します。

その理由の多くが、公立高校では2次試験対策が間に合わないからです。

理系の厳しさは国公立大だけではありません。

関関同立でも数学は公立中、公立高校にいくと時間的にかなり厳しいものになります。

次に英語です。

特に英語の配点が共通テストにおいて200点中、100点がリスニングです。

これはペーパーテストしかしたことがない生徒が、いきなり高3でリスニング対策をしても、なかなか点数はとれません。

よって、当塾でも推奨していますが、私立中学では英検、学校によってはTOEICを受験させることにより、リスニング対策を行います。

アシストでも英検対策を通じて、リスニング、スピーキング対策を行っています。

そして、中高一貫校で英語のいいところは、文法の授業とリーディングの授業を分けて行うことです。

公立は中高一貫校ほど文法をしっかりと学習しません。

そういう意味でもアシストでは学校以上に文法をしっかりと学習していただいています。

そして、公立中に通われている方が気を悪くされては申し訳ないですが、コロナ禍以降、内申点が高くつく傾向にあります。

私の知人で、とある私立高校の教師がいるのですが、公立中学で通知表オール5の生徒で、一番成績の良い生徒と悪い生徒で本番の500満点ペーパーテストが200点の差がついているそうです。

つまり内申点と実際の学力があっていないのです。

ですから、高校受験という目線では内申点が高いことはもちろん重要なのですが、一方、大学受験という目線では実態よりも内申点が高くなるので、大学受験で苦労するということが多々あります

そして、中学受験をおすすめする最大の理由は、あまりに授業態度が悪い生徒がまずいないことです。

私立中の授業においては、だれもが中学受験をクリアしているので、授業中に「まず座れ」「とりあえず後ろ向いて話すな。」という指導を先生がしているという話はききません。

公立中は残念ながらクラスによってはこれがありえます。

すると、勉強を真面目にしたい生徒の邪魔になります。

なお、アシストではそのような生徒さまは、申し訳ないですがご入塾できません。あるいは退塾いただきます。

## ・公立中学におけるアシストの英語対策

次に公立中学校についてのアシストの英語対策をお話します。

繰り返しですが、学習指導要領の改定から英語が難しくなっています。

具体的にいうと覚える英単語だけでも 1.5 倍になりました。

以前であれば、I am, you are を学習している時期に、I want to などの不定詞も形だけとはいえ授業で学習しています。

**多くの個別指導塾は週 1 回、80 分から 90 分くらいの授業で行っていますが、勉強する量が増えているのに、以前と同じことをして同じ様に成績があがるわけがありません。**

たしかに成績がアップする生徒もいます。

そういう生徒さんは平均よりもかなり上で、英語の基礎力がついている生徒さんです。

具体的にいいますと、英検 3 級を持っていると中学英語で根本的に躓くことはまずありません。

よって、アシストでは可能であれば中学 2 年、おそくとも中学 3 年の夏くらいまでに英検 3 級の取得をサポートします。

**そのために、週 1 回の授業料と無料とさせていただきます。**

おおくの個別指導塾では英語、数学の週 2 回をとっている人が多いですが、アシストでは英語 2 回、数学 1 回の週 3 回を推奨しています。(それで授業料は週 2 回と同じです。)

## ・勉強がとにかく苦手な生徒様

勉強がとにかく苦手な生徒さん、たとえば 500 点満点で 150 点以下の生徒様、そのような生徒さまもやる気のある方は歓迎です。

もし、学校の宿題もまともに出したことない生徒さんであれば、科目にとらわれずまずは学校の宿題を完成させることから始めます。(ただし、副教科は対象外です。)

一緒に頑張ることで、まずは宿題をやりどけることから始めましょう。

本番の点数よりも内申点で合格する学校選びをおすすめします。

まずは通知票オール 3 をめざします。

## ・5 科目の定期テスト対策

中学生につきましては、これは中高一貫校生も同じですが、定期テスト前などには普段受講していない、理科・社会などの補講も可能です。

その場合は、必ずしも 1:2 の授業はお約束できませんが、無料で補講としてのテスト対策もご希望であれば可能な限りさせていただきます。

## ・中高一貫校対策について

中高一貫校の生徒様については、学校ごとというより、先生ごとに授業内容を合わせる必要があります。

よって、塾の内容も生徒様にあわせた指導をいたします。

ところで、これから中学受験をご検討のかたに参考になればとおもいますが、いわゆる偏差値の高い中学校がレベルの高い授業をしているかといえば、実はそうでもありません。

例えば、この近隣の私立中学さんとして、常翔学園さん、大阪国際さん、開明さんとありますが、中学入試の難易度としては圧倒的に開明さんが高いです。しかし、授業進度や難易度が大阪国際さんと大きく違うかというとは実はそれほど差はないように思います。

中学受験の難易度としては、常翔学園さんのほうが大阪国際さんよりやや高いイメージですが、カリキュラムのスピードは大阪国際さんの方が早いです。(特に英語)

京阪沿線でいいますと、同志社香里さんはかなり特殊です。

社会、理科はほぼ完全にオリジナルのカリキュラムですし、英語についてもネイティブ感覚に近い先生が教えているので、いわゆる受験英語では教えないような文法も教えることがあります。

アシストではそのような場合、基本的に学校の先生に合わせて授業をしますが、補足説明も行います。

## ・中高一貫校の注意点

中高一貫校の注意点としては、高校受験がないので、わからなくなってもそのまま進学してしまうことです。

これも特に英語が注意です。

中高一貫校で高3になってから挽回したいという生徒さんもいらっしゃいますが、相当の努力が必要です。

実はアシストの一期生の生徒さんがそういう生徒さんでした。

高3の一学期に入塾いただきまして、Are you と Do you から復習しました。

つまり中一英語からの復習です。

毎日6時間位ずっと英語の勉強をしていました。

結果どうなったかというと桃山学院大学に合格しました。

**つまりやればできます。**

しかし、そもそも嫌いな科目であったから今までやっていなかったわけで相当の覚悟と努力が必要です。

## ・高校生、大学受験対策

原則として大学受験は関関同立合格、国公立志望の高2生まで、あるいは高3の予備校とのダブルスクールを想定しています。

私どもの指導方針として、大学受験を検討されているご家庭につきましては、高校選びの時点で大学受験意識した生徒様への進路指導および、保護者様への情報提供を行っています。

したがって、大学受験を意識しているご家庭につきましては、高校受験は一つの通過点として、高校受験の情報提供を行っています。

大学受験という観点で大阪近辺の高校選びを考えますと、東高校より下の偏差値ラインであれば、経済的に問題なければ私立高校を選んだほうが良いと思います。(すでに公立高校を選ばれた方は非常に恐縮ですが。)

その大きな理由は推薦枠です。

偏差値が同じ、いや、むしろ多少低くても私立のほうが、推薦枠が圧倒的に多いのです。

数年前、旭高校の教え子が評定で4.2もあったのに推薦がとれなかったということもあります。(一般で合格しましたが。)

個人的には公立学校の問題だと思っていますが、それが現実です。

## ・高校生の英語対策

アシストでは生徒様にあわせて授業をしますので、学校の補講として学校に合わせた授業をすることもできますし、学校のカリキュラムを無視して、大学受験対策の授業をすることも可能です。

基本的には中高一貫校の生徒さんは学校にあわせて授業をします。

しかし、高2以上で入塾された生徒さんや学校のカリキュラムが遅い場合、逆に早すぎる場合は、大学受験を意識した独自のカリキュラムで授業を行っています。

とくに高3生になると、学校のカリキュラムに合わせる意味があまりないので、原則、学校にあわせて大学受験対策を行います。

そして、高2までに英検2級を取得することを推奨しています。

英検2級を取得すれば大学によってはほぼ合格点をくれる大学もあります。

また、自分でも英語の勉強を進めることができる基礎力が身につけている目安にもなります。

#### ・高校生の文系対策

産近甲龍以上の大学では多くの場合、英語、現代文、古文、社会の四科目受験になります。

摂南以下の大学や公募の一部は英語と現代文です。

つまり、産近甲龍以上を目指すか、それ以外かでやることが大きく変わります。

特に、旭高校クラスの生徒さんの場合、古典と社会が大きく負担になってきますので、高一からの通塾をおすすめします。

文理選択がまだでも、できるだけ早く英語の力を身につけるためです。

そして、古典の基礎文法を2年生の夏休み前には完成しておきたいです。

くわえて、社会については2年間に一周はしておきたいです。学校によっては2年間かけて、教科書を一周する学校もありますが、それでは遅い、あるいは3年生がかなりきつくなります。

英語・古典・社会の基礎をできるだけ早期身につけることです。

また現代文については漢検準2級以上取得を目安に漢字の勉強をしつつ、アシストが提供するプロ講師による現代文の授業を取っていただくのがおすすめです。

#### ・高校生の理系対策

理系に進まれる場合は、文系以上に早く進路を決めておく必要があります。

というのも数Ⅲ(C)がスケジュール的にかなりきついです。

大学受験は一般試験が2月にあります。

ということは、1年生のときに1・A、2年生で2・B、3年生で3・(C)とやっている間に合いません。

特に神大以上を目指す場合は1・Aを高1の1学期くらいで終わって、2学期に2・Bに進む必要があります。

実際のところ東以上の高校はそれくらいもスピードで進みます。

先にお話しましたが、中高一貫校では中3で数学は高校分野にはいってきますが、何のためかというと理系に進んだ場合、高2までに数Ⅲ・(C)のほとんどを終わるためです。

アシストの考える良い授業とは

当然、生徒のやる気があがって成績があがって、志望校に合格するのが良い授業です。

しかしそれはあまりに抽象的な答えです。

ここでは個別指導塾におけるよくある誤解をお話しておきたいと思います。

・先生（講師）の教えている時間が長い授業が、成績が上がる授業とはかぎらない。

基本的に個別指導の良い授業は、講師が話している時間が短くて、生徒がペンを動かしている時間が長い授業が良い授業です。

生徒の多くは解き方や答えをすぐに知りたがります。

しかし大事なことは考えることや、勉強の仕方を学ぶことです。

講師はポイントだけ話して、生徒がペンを動かしている授業が良い授業です。

ただし例外もあります。たとえば高3の難しい数学や、英語の長文、さらに中学受験の国語などです。そういった授業は予め生徒が自習や宿題で解いてきて、講師の解説を聞いたり、わからないところを質問する授業になります。

このような授業は講師が話している時間が長くならざるを得ません。

しかし、平均レベルの中学生の授業はむしろ生徒がペンを動かしている時間が長い授業の方がいい授業です。

・通塾しているだけでは成績はあがらない

例えば週1回80分、宿題もなし。

こういう授業で結果がでるのは公立中学校の平均点以下の成績です。

基本的に成績が上位層の生徒、あるいは学年があがるほど、塾にきていないときの勉強法が大事になってきます。

たとえば、週1回80分の勉強で合格できる大学などありませんし、それで合格できるなら通塾の必要はありません。

アシストは自習スペースは営業時間中はいつでも利用できます。

また、補講も原則無料で行っています。

最低限度の宿題はもちろん、塾以外の勉強も行っただきます。

特に中学受験生は授業以外の時間もしっかりと宿題の指示をいたしますので、自習スペースで行っていただき、わからないところはいつでも質問にお答えします。

- ・小中学生はしかります。高校生はしかりません。

個別指導塾の多くは集団授業ほど叱りません。

しかし、アシストは態度の悪い生徒や宿題をしない生徒は叱ります。

とくに中学生や中学受験生は集団塾のように叱ります。

場合によっては「帰れ。」とまでいいます。

当塾では補講も可能な限り無料でさせていただいております。そして自習スペースも提供しています。

よってまじめに勉強したい生徒に迷惑のかかる行為や宿題をしない生徒はしかります。

ただし、単にしかるだけでなく、可能な限り補講に呼びます。

一方高校生はしかりません。

勉強のやり方はお伝えいたしますが、やる気が云々という生徒さんは、まずはやる気になってからきてください。

- ・コピー機、ネット環境は無料で使用できます。

学校のプリント、塾の教材などのコピーは無料をご利用いただけます。

また最近ではデータでの課題提出や学校から解答を送られてくる場合も多いですが、wifiも無料で開放しております。

- ・自習スペース
- ・中学生はいつでも5科目質問可能。(高校生は科目によります)
- ・補講も原則無料
- ・コピー機、wifiなどの施設も無料開放

アシストは勉強できる最高の環境を提供しております。

やる気のある生徒様はぜひともお待ちしております。

個別指導学院アシスト 学院長 前田敏秀

個別指導学院アシストの学習指導方針について

～志望校合格と点数アップのために～

はじめに

個別指導学院アシストの代表の前田敏秀と申します。

このたびは本小冊子をお読みくださりありがとうございます。

本学院は開講して三年目の学習塾になります。

私自身の経歴としましては、大手塾などを経験し、集団授業、個別指導、両方の指導に関わってきました。

対象の生徒様は公立小学校の生徒様、中学受験生、中学生、中高一貫生、高校生、大学受験生など様々です。

多くの塾様は公立の中学校の専門の塾様が多いですが、地域密着の塾としては、大学受験を一つのゴールとして、受験にかかわる総合的なアシストをさせていただいております。

実際のところ、2023年9月現在におきましては、通われている生徒様も公立中学（蒲生中、董中など）は少なく、私立の中高一貫校の生徒様、および高校生の生徒様のほうが多いです。

この小冊子では現在における肌で感じている教育の現場の現状、及び問題点、そして、アシストの考えをお伝えいたします。

その上で、ご関心をおもちいただければ、ぜひともまずは個別説明会、体験授業にお越しくださいませ。

小学校、中学校、中高一貫校、高校における現場から見える学校の現状と課題、そしてアシストができる問題解決についてお話させていただきます。

## ・小学校の現状と問題点

今、小中学生の学力低下、特に読解力の低下が問題視されています。

実は、原因はわりとはっきりしていてスマホだと言われています。

読解力の低下については、アシストを開講する以前から長年感じている問題です。

国語における「読む力」との低下です。

国語とは日本語です。

国語が苦手な生徒さんは漫画すら読みません。小説や物語などはなおさらです。

また一般常識としての童話をしりません。「シンデレラ」「浦島太郎」「白雪姫」などの話を知らない生徒さんも多いです。

もし、小学生のお子さんをお持ちの保護者の方がこの冊子を読まれていれば、お子さんはそういった童話をお読みでしょうか？

ぜひ聞いてみることをおすすめします。

そして、どんなあらすじであったか聞いてみてください。

小学校の高学年でこたえることができなければ、国語力は黄色信号が点滅しています。

また小中学生全体の読む力が弱く、中1の平均的な国語の点数をとる生徒さんでも、小三レベルの国語の問題に苦戦する生徒さんも多いです。

読む力が弱い原因の一つが、長い文章を読むことに耐えられる集中力が続かないことです。

国語の苦手な生徒さんはA4くらいの問題が読めません。

集中力が続かないのです。

A4 といふとこの冊子でここまでかいた文章量くらいです。

しかも実際には小学生向けですから、もっと大きな字で行間も開けて書いてありますので、A5くらいの分量です。

この分量を読む集中力が続かないのです。

読めないというは2つの段階があります。

一つは文字通り読めなくて集中力が続かないので読むこと自体を投げ出すのです。

アシストでは、そういう場合は講師が声を出して読んで、生徒にあとに続いて声を出して読んでもらいます。

次の「読めない」の段階は文脈が読み取れるかどうかです。

具体的には文章ででてくる「これ」という指示語が的確に把握することができるかどうかです。

国語の苦手な生徒さんはこれできません。

今の例でいうと前の文の「これ」が『文章ででてくる「これ」という指示語が的確に把握すること』が読めない生徒さんも多いです。

特に中学受験では長い文章が出題されます。

イメージとしてはA3両面に文章ぎっしりくらいのイメージです。  
この長い文章を、集中力を途切れさせず、早的的確に読むことが課題になります。  
アシストでは問題を解くだけでなく、まずは生徒様によっては本を読むことに慣れてもらうこと、そして本を読むたのしさを知ってもらうことから始めます。

次に書く力の問題についてです。  
これは表面的にはなかなかわかりません。  
表面的に現れるのは「記述問題」が苦手程度です。  
ですから、小学校、中学校の間は大した問題として表面化していないだけのことです。  
なぜなら、記述問題の点数配分は小さく、極端な話、点数をとるためには記述問題にこだわるよりも、暗記問題をしっかりマスターしたほうが、点数が稼げるからです。  
しかし、高校生になってから、書く力が弱いことについて影響力が如実にでてきます。  
とくに英語で出てきます。  
英語と国語は言語学として表裏一体です。  
なぜなら英語を日本語訳にするときに国語としての書く力や読む力が求められるからです。  
英語の苦手な高校生は国語の書く力が弱いです。  
そもそも日本語の作文が苦手です。  
英語以前に日本語としておかしな文を書きます。  
具体的には英単語の意味を全部調べて、文法的な修飾、被修飾の関係を全部整理して、あとは多少表現を変えながら言葉を並び替えればいだけにも関わらず、それができないこともたくさんあります。

**アシストでは小学校のころから国語力アップを意識した指導をしています。**

次に、小学生における英語についてです。  
現在、小学校でも英語の授業が行われていますが、ほとんどの場合、全く身につかずに中学校のカリキュラムが進んでいます。  
生徒目線では小学校から中学校にあがって急に難しくなっているはずですが。  
**アシストでは小学校のうちに英検4級は取得することを推奨しています。**  
すると、中学校にあがっても、得意科目になっていくことでしょう。  
そのためにアシストでは通常週1回の料金で週2回分の個別指導を受講いただくことが可能です。

## ・ 中学受験について

アシストではご家庭の経済力に余裕があるのであれば中学受験をおすすめしています。

理由の一つが、公立中を卒業してからの国公立大、特に理系学部の受験が非常に難易度が高いからです。

ご自身が大学受験をされた保護者様も多いと思いますが、保護者の皆様の世代と比べると、理系分野については約1.5倍勉強する量が多くなっています。

そして、保護者様の世代よりも国公立大と関関同立の差が大きいです。

保護者様の世代であれば地方の国立よりも関関同立を選ばれた人も多かった世代ですが、時代は変化しています。

決して易しいわけではないですが、文系については、関関同立は保護者様の世代よりも易しくなっていると思います。

それは背景として少子化の問題があります。

一方、国公立大は難しくなっています。

その背景としましては、理系の勉強量が増えていることと、英語が難しくなっていることがあります。

理系の勉強量が増えているというのは前述のとおりですが、カリキュラムについて、もう少し具体的に申し上げます。

中高一貫校では公立にくらべて、おおよそ一年早くカリキュラムが進みます。

そして高2までに高校の範囲をほぼ修了し、高3は受験対策を行います。

英語は公立と比べて非常に早いというわけでもないですが、数学はどの私立中学も基本的に進むペースが早いです。

なぜかといいますと、高2までに、数学のカリキュラムを終わらせて、高3はひたすら復習と国公立の2次試験対策をする必要があるからです。

公立トップの文理学科に行く生徒でも、国公立大を目指す生徒は半分くらいは浪人します。

その理由の多くが、公立高校では2次試験対策が間に合わないからです。

理系の厳しさは国公立大だけではありません。

関関同立でも数学は公立中、公立高校にいくと時間的にかなり厳しいものになります。

次に英語です。

特に英語の配点が共通テストにおいて200点中、100点がリスニングです。

これはペーパーテストしかしたことがない生徒が、いきなり高3でリスニング対策をしても、なかなか点数はとれません。

よって、当塾でも推奨していますが、私立中学では英検、学校によってはTOEICを受験させることにより、リスニング対策を行います。

アシストでも英検対策を通じて、リスニング、スピーキング対策を行っています。

そして、中高一貫校で英語のいいところは、文法の授業とリーディングの授業を分けて行うことです。

公立は中高一貫校ほど文法をしっかりと学習しません。

そういう意味でもアシストでは学校以上に文法をしっかりと学習していただいています。

そして、公立中に通われている方が気を悪くされては申し訳ないですが、コロナ禍以降、内申点が高くつく傾向にあります。

私の知人で、とある私立高校の教師がいるのですが、公立中学で通知表オール5の生徒で、一番成績の良い生徒と悪い生徒で本番の500満点ペーパーテストが200点の差がついているそうです。

つまり内申点と実際の学力があっていないのです。

ですから、高校受験という目線では内申点が高いことはもちろん重要なのですが、一方、大学受験という目線では実態よりも内申点が高くなるので、大学受験で苦労するということが多々あります

そして、中学受験をおすすめする最大の理由は、あまりに授業態度が悪い生徒がまずいないことです。

私立中の授業においては、だれもが中学受験をクリアしているので、授業中に「まず座れ」「とりあえず後ろ向いて話すな。」という指導を先生がしているという話はききません。

公立中は残念ながらクラスによってはこれがありえます。

すると、勉強を真面目にしたい生徒の邪魔になります。

なお、アシストではそのような生徒さまは、申し訳ないですがご入塾できません。あるいは退塾いただきます。

## ・公立中学におけるアシストの英語対策

次に公立中学校についてのアシストの英語対策をお話します。

繰り返しですが、学習指導要領の改定から英語が難しくなっています。

具体的にいうと覚える英単語だけでも 1.5 倍になりました。

以前であれば、I am, you are を学習している時期に、I want to などの不定詞も形だけとはいえ授業で学習しています。

**多くの個別指導塾は週 1 回、80 分から 90 分くらいの授業で行っていますが、勉強する量が増えているのに、以前と同じことをして同じ様に成績があがるわけがありません。**

たしかに成績がアップする生徒もいます。

そういう生徒さんは平均よりもかなり上で、英語の基礎力がついている生徒さんです。

具体的にいいますと、英検 3 級を持っていると中学英語で根本的に躓くことはまずありません。

よって、アシストでは可能であれば中学 2 年、おそくとも中学 3 年の夏くらいまでに英検 3 級の取得をサポートします。

**そのために、週 1 回の授業料と無料とさせていただきます。**

おおくの個別指導塾では英語、数学の週 2 回をとっている人が多いですが、アシストでは英語 2 回、数学 1 回の週 3 回を推奨しています。(それで授業料は週 2 回と同じです。)

## ・勉強がとにかく苦手な生徒様

勉強がとにかく苦手な生徒さん、たとえば 500 点満点で 150 点以下の生徒様、そのような生徒さまもやる気のある方は歓迎です。

もし、学校の宿題もまともに出したことない生徒さんであれば、科目にとらわれずまずは学校の宿題を完成させることから始めます。(ただし、副教科は対象外です。)

一緒に頑張ることで、まずは宿題をやりどけることから始めましょう。

本番の点数よりも内申点で合格する学校選びをおすすめします。

まずは通知票オール 3 をめざします。

## ・5 科目の定期テスト対策

中学生につきましては、これは中高一貫校生も同じですが、定期テスト前などには普段受講していない、理科・社会などの補講も可能です。

その場合は、必ずしも 1:2 の授業はお約束できませんが、無料で補講としてのテスト対策もご希望であれば可能な限りさせていただきます。

## ・中高一貫校対策について

中高一貫校の生徒様については、学校ごとというより、先生ごとに授業内容を合わせる必要があります。

よって、塾の内容も生徒様にあわせた指導をいたします。

ところで、これから中学受験をご検討のかたに参考になればとおもいますが、いわゆる偏差値の高い中学校がレベルの高い授業をしているかといえば、実はそうでもありません。

例えば、この近隣の私立中学さんとして、常翔学園さん、大阪国際さん、開明さんとありますが、中学入試の難易度としては圧倒的に開明さんが高いです。しかし、授業進度や難易度が大阪国際さんと大きく違うかというとは実はそれほど差はないように思います。

中学受験の難易度としては、常翔学園さんのほうが大阪国際さんよりやや高いイメージですが、カリキュラムのスピードは大阪国際さんの方が早いです。(特に英語)

京阪沿線でいいますと、同志社香里さんはかなり特殊です。

社会、理科はほぼ完全にオリジナルのカリキュラムですし、英語についてもネイティブ感覚に近い先生が教えているので、いわゆる受験英語では教えないような文法も教えることがあります。

アシストではそのような場合、基本的に学校の先生に合わせて授業をしますが、補足説明も行います。

## ・中高一貫校の注意点

中高一貫校の注意点としては、高校受験がないので、わからなくなってもそのまま進学してしまうことです。

これも特に英語が注意です。

中高一貫校で高3になってから挽回したいという生徒さんもいらっしゃいますが、相当の努力が必要です。

実はアシストの一期生の生徒さんがそういう生徒さんでした。

高3の一学期に入塾いただきまして、Are you と Do you から復習しました。

つまり中一英語からの復習です。

毎日6時間位ずっと英語の勉強をしていました。

結果どうなったかというと桃山学院大学に合格しました。

**つまりやればできます。**

しかし、そもそも嫌いな科目であったから今までやっていなかったわけで相当の覚悟と努力が必要です。

## ・高校生、大学受験対策

原則として大学受験は関関同立合格、国公立志望の高2生まで、あるいは高3の予備校とのダブルスクールを想定しています。

私どもの指導方針として、大学受験を検討されているご家庭につきましては、高校選びの時点で大学受験意識した生徒様への進路指導および、保護者様への情報提供を行っています。

したがって、大学受験を意識しているご家庭につきましては、高校受験は一つの通過点として、高校受験の情報提供を行っています。

大学受験という観点で大阪近辺の高校選びを考えますと、東高校より下の偏差値ラインであれば、経済的に問題なければ私立高校を選んだほうがいいと思います。(すでに公立高校を選ばれた方は非常に恐縮ですが。)

その大きな理由は推薦枠です。

偏差値が同じ、いや、むしろ多少低くても私立のほうが、推薦枠が圧倒的に多いのです。

数年前、旭高校の教え子が評定で4.2もあったのに推薦がとれなかったということもあります。(一般で合格しましたが。)

個人的には公立学校の問題だと思っていますが、それが現実です。

## ・高校生の英語対策

アシストでは生徒様にあわせて授業をしますので、学校の補講として学校に合わせた授業をすることもできますし、学校のカリキュラムを無視して、大学受験対策の授業をすることも可能です。

基本的には中高一貫校の生徒さんは学校にあわせて授業をします。

しかし、高2以上で入塾された生徒さんや学校のカリキュラムが遅い場合、逆に早すぎる場合は、大学受験を意識した独自のカリキュラムで授業を行っています。

とくに高3生になると、学校のカリキュラムに合わせる意味があまりないので、原則、学校にあわせず大学受験対策を行います。

そして、高2までに英検2級を取得することを推奨しています。

英検2級を取得すれば大学によってはほぼ合格点をくれる大学もあります。

また、自分でも英語の勉強を進めることができる基礎力が身についている目安にもなります。

#### ・高校生の文系対策

産近甲龍以上の大学では多くの場合、英語、現代文、古文、社会の四科目受験になります。

摂南以下の大学や公募の一部は英語と現代文です。

つまり、産近甲龍以上を目指すか、それ以外かでやることが大きく変わります。

特に、旭高校クラスの生徒さんの場合、古典と社会が大きく負担になってきますので、高一からの通塾をおすすめします。

文理選択がまだでも、できるだけ早く英語の力を身につけるためです。

そして、古典の基礎文法を2年生の夏休み前には完成しておきたいです。

くわえて、社会については2年間に一周はしておきたいです。学校によっては2年間かけて、教科書を一周する学校もありますが、それでは遅い、あるいは3年生がかなりきつくなります。

英語・古典・社会の基礎をできるだけ早期身につけることです。

また現代文については漢検準2級以上取得を目安に漢字の勉強をしつつ、アシストが提供するプロ講師による現代文の授業を取っていただくのがおすすめです。

#### ・高校生の理系対策

理系に進まれる場合は、文系以上に早く進路を決めておく必要があります。

というのも数Ⅲ(C)がスケジュール的にかなりきついです。

大学受験は一般試験が2月にあります。

ということは、1年生のときに1・A、2年生で2・B、3年生で3・(C)とやっている間に合いません。

特に神大以上を目指す場合は1・Aを高1の1学期くらいで終わって、2学期に2・Bに進む必要があります。

実際のところ東以上の高校はそれくらいもスピードで進みます。

先にお話しましたが、中高一貫校では中3で数学は高校分野にはいってきますが、何のためかというと理系に進んだ場合、高2までに数Ⅲ・(C)のほとんどを終わるためです。

アシストの考える良い授業とは

当然、生徒のやる気があがって成績があがって、志望校に合格するのが良い授業です。

しかしそれはあまりに抽象的な答えです。

ここでは個別指導塾におけるよくある誤解をお話しておきたいと思います。

・先生（講師）の教えている時間が長い授業が、成績が上がる授業とはかぎらない。

基本的に個別指導の良い授業は、講師が話している時間が短くて、生徒がペンを動かしている時間が長い授業が良い授業です。

生徒の多くは解き方や答えをすぐに知りたがります。

しかし大事なことは考えることや、勉強の仕方を学ぶことです。

講師はポイントだけ話して、生徒がペンを動かしている授業が良い授業です。

ただし例外もあります。たとえば高3の難しい数学や、英語の長文、さらに中学受験の国語などです。そういった授業は予め生徒が自習や宿題で解いてきて、講師の解説を聞いたり、わからないところを質問する授業になります。

このような授業は講師が話している時間が長くならざるを得ません。

しかし、平均レベルの中学生の授業はむしろ生徒がペンを動かしている時間が長い授業の方がいい授業です。

・通塾しているだけでは成績はあがらない

例えば週1回80分、宿題もなし。

こういう授業で結果がでるのは公立中学校の平均点以下の成績です。

基本的に成績が上位層の生徒、あるいは学年があがるほど、塾にきていないときの勉強法が大事になってきます。

たとえば、週1回80分の勉強で合格できる大学などありませんし、それで合格できるなら通塾の必要はありません。

アシストは自習スペースは営業時間中はいつでも利用できます。

また、補講も原則無料で行っています。

最低限度の宿題はもちろん、塾以外の勉強も行っただきます。

特に中学受験生は授業以外の時間もしっかりと宿題の指示をいたしますので、自習スペースで行っていただき、わからないところはいつでも質問にお答えします。

- ・小中学生はしかります。高校生はしかりません。

個別指導塾の多くは集団授業ほど叱りません。

しかし、アシストは態度の悪い生徒や宿題をしない生徒は叱ります。

とくに中学生や中学受験生は集団塾のように叱ります。

場合によっては「帰れ。」とまでいいます。

当塾では補講も可能な限り無料でさせていただきます。そして自習スペースも提供しています。

よってまじめに勉強したい生徒に迷惑のかかる行為や宿題をしない生徒はしかります。

ただし、単にしかるだけでなく、可能な限り補講に呼びます。

一方高校生はしかりません。

勉強のやり方はお伝えいたしますが、やる気が云々という生徒さんは、まずはやる気になってからきてください。

- ・コピー機、ネット環境は無料で使用できます。

学校のプリント、塾の教材などのコピーは無料をご利用いただけます。

また最近ではデータでの課題提出や学校から解答を送られてくる場合も多いですが、wifiも無料で開放しております。

- ・自習スペース
- ・中学生はいつでも5科目質問可能。(高校生は科目によります)
- ・補講も原則無料
- ・コピー機、wifiなどの施設も無料開放

アシストは勉強できる最高の環境を提供しております。

やる気のある生徒様はぜひともお待ちしております。

個別指導学院アシスト 学院長 前田敏秀

個別指導学院アシストの学習指導方針について

～志望校合格と点数アップのために～

はじめに

個別指導学院アシストの代表の前田敏秀と申します。

このたびは本小冊子をお読みくださりありがとうございます。

本学院は開講して三年目の学習塾になります。

私自身の経歴としましては、大手塾などを経験し、集団授業、個別指導、両方の指導に関わってきました。

対象の生徒様は公立小学校の生徒様、中学受験生、中学生、中高一貫生、高校生、大学受験生など様々です。

多くの塾様は公立の中学校の専門の塾様が多いですが、地域密着の塾としては、大学受験を一つのゴールとして、受験にかかわる総合的なアシストをさせていただいております。

実際のところ、2023年9月現在におきましては、通われている生徒様も公立中学（蒲生中、董中など）は少なく、私立の中高一貫校の生徒様、および高校生の生徒様のほうが多いです。

この小冊子では現在における肌で感じている教育の現場の現状、及び問題点、そして、アシストの考えをお伝えいたします。

その上で、ご関心をおもちいただければ、ぜひともまずは個別説明会、体験授業にお越しくださいませ。

小学校、中学校、中高一貫校、高校における現場から見える学校の現状と課題、そしてアシストができる問題解決についてお話させていただきます。

## ・小学校の現状と問題点

今、小中学生の学力低下、特に読解力の低下が問題視されています。

実は、原因はわりとはっきりしていてスマホだと言われています。

読解力の低下については、アシストを開講する以前から長年感じている問題です。

国語における「読む力」との低下です。

国語とは日本語です。

国語が苦手な生徒さんは漫画すら読みません。小説や物語などはなおさらです。

また一般常識としての童話をしりません。「シンデレラ」「浦島太郎」「白雪姫」などの話を知らない生徒さんも多いです。

もし、小学生のお子さんをお持ちの保護者の方がこの冊子を読まれていれば、お子さんはそういった童話をお読みでしょうか？

ぜひ聞いてみることをおすすめします。

そして、どんなあらすじであったか聞いてみてください。

小学校の高学年でこたえることができなければ、国語力は黄色信号が点滅しています。

また小中学生全体の読む力が弱く、中1の平均的な国語の点数をとる生徒さんでも、小三レベルの国語の問題に苦戦する生徒さんも多いです。

読む力が弱い原因の一つが、長い文章を読むことに耐えられる集中力が続かないことです。

国語の苦手な生徒さんはA4くらいの問題が読めません。

集中力が続かないのです。

A4 というとこの冊子でここまでかいた文章量くらいです。

しかも実際には小学生向けですから、もっと大きな字で行間も開けて書いてありますので、A5 くらいの分量です。

この分量を読む集中力が続かないのです。

読めないというは2つの段階があります。

一つは文字通り読めなくて集中力が続かないので読むこと自体を投げ出すのです。

アシストでは、そういう場合は講師が声を出して読んで、生徒にあとに続いて声を出して読んでもらいます。

次の「読めない」の段階は文脈が読み取れるかどうかです。

具体的には文章ででてくる「これ」という指示語が的確に把握することができるかどうかです。

国語の苦手な生徒さんはこれできません。

今の例でいうと前の文の「これ」が『文章ででてくる「これ」という指示語が的確に把握すること』が読めない生徒さんも多いです。

特に中学受験では長い文章が出題されます。

イメージとしてはA3両面に文章ぎっしりくらいのイメージです。  
この長い文章を、集中力を途切れさせず、早的的確に読むことが課題になります。  
アシストでは問題を解くだけでなく、まずは生徒様によっては本を読むことに慣れてもらうこと、そして本を読むたのしさを知ってもらうことから始めます。

次に書く力の問題についてです。  
これは表面的にはなかなかわかりません。  
表面的に現れるのは「記述問題」が苦手程度です。  
ですから、小学校、中学校の間は大した問題として表面化していないだけのことです。  
なぜなら、記述問題の点数配分は小さく、極端な話、点数をとるためには記述問題にこだわるよりも、暗記問題をしっかりマスターしたほうが、点数が稼げるからです。  
しかし、高校生になってから、書く力が弱いことについて影響力が如実にでてきます。  
とくに英語で出てきます。  
英語と国語は言語学として表裏一体です。  
なぜなら英語を日本語訳にするときに国語としての書く力や読む力が求められるからです。  
英語の苦手な高校生は国語の書く力が弱いです。  
そもそも日本語の作文が苦手です。  
英語以前に日本語としておかしな文を書きます。  
具体的には英単語の意味を全部調べて、文法的な修飾、被修飾の関係を全部整理して、あとは多少表現を変えながら言葉を並び替えればいだけにも関わらず、それができないこともたくさんあります。

**アシストでは小学校のころから国語力アップを意識した指導をしています。**

次に、小学生における英語についてです。  
現在、小学校でも英語の授業が行われていますが、ほとんどの場合、全く身につかずに中学校のカリキュラムが進んでいます。  
生徒目線では小学校から中学校にあがって急に難しくなっているはずですが。  
**アシストでは小学校のうちに英検4級は取得することを推奨しています。**  
すると、中学校にあがっても、得意科目になっていくことでしょう。  
そのためにアシストでは通常週1回の料金で週2回分の個別指導を受講いただくことが可能です。

## ・ 中学受験について

アシストではご家庭の経済力に余裕があるのであれば中学受験をおすすめしています。

理由の一つが、公立中を卒業してからの国公立大、特に理系学部の受験が非常に難易度が高いからです。

ご自身が大学受験をされた保護者様も多いと思いますが、保護者の皆様の世代と比べると、理系分野については約1.5倍勉強する量が多くなっています。

そして、保護者様の世代よりも国公立大と関関同立の差が大きいです。

保護者様の世代であれば地方の国立よりも関関同立を選ばれた人も多かった世代ですが、時代は変化しています。

決して易しいわけではないですが、文系については、関関同立は保護者様の世代よりも易しくなっていると思います。

それは背景として少子化の問題があります。

一方、国公立大は難しくなっています。

その背景としましては、理系の勉強量が増えていることと、英語が難しくなっていることがあります。

理系の勉強量が増えているというのは前述のとおりですが、カリキュラムについて、もう少し具体的に申し上げます。

中高一貫校では公立にくらべて、おおよそ一年早くカリキュラムが進みます。

そして高2までに高校の範囲をほぼ修了し、高3は受験対策を行います。

英語は公立と比べて非常に早いというわけでもないですが、数学はどの私立中学も基本的に進むペースが早いです。

なぜかといいますと、高2までに、数学のカリキュラムを終わらせて、高3はひたすら復習と国公立の2次試験対策をする必要があるからです。

公立トップの文理学科に行く生徒でも、国公立大を目指す生徒は半分くらいは浪人します。

その理由の多くが、公立高校では2次試験対策が間に合わないからです。

理系の厳しさは国公立大だけではありません。

関関同立でも数学は公立中、公立高校にいくと時間的にかなり厳しいものになります。

次に英語です。

特に英語の配点が共通テストにおいて200点中、100点がリスニングです。

これはペーパーテストしかしたことがない生徒が、いきなり高3でリスニング対策をしても、なかなか点数はとれません。

よって、当塾でも推奨していますが、私立中学では英検、学校によってはTOEICを受験させることにより、リスニング対策を行います。

アシストでも英検対策を通じて、リスニング、スピーキング対策を行っています。

そして、中高一貫校で英語のいいところは、文法の授業とリーディングの授業を分けて行うことです。

公立は中高一貫校ほど文法をしっかりと学習しません。

そういう意味でもアシストでは学校以上に文法をしっかりと学習していただいています。

そして、公立中に通われている方が気を悪くされては申し訳ないですが、コロナ禍以降、内申点が高くつく傾向にあります。

私の知人で、とある私立高校の教師がいるのですが、公立中学で通知表オール5の生徒で、一番成績の良い生徒と悪い生徒で本番の500満点ペーパーテストが200点の差がついているそうです。

つまり内申点と実際の学力があっていないのです。

ですから、高校受験という目線では内申点が高いことはもちろん重要なのですが、一方、大学受験という目線では実態よりも内申点が高くなるので、大学受験で苦労するということが多々あります

そして、中学受験をおすすめする最大の理由は、あまりに授業態度が悪い生徒がまずいないことです。

私立中の授業においては、だれもが中学受験をクリアしているので、授業中に「まず座れ」「とりあえず後ろ向いて話すな。」という指導を先生がしているという話はききません。

公立中は残念ながらクラスによってはこれがありえます。

すると、勉強を真面目にしたい生徒の邪魔になります。

なお、アシストではそのような生徒さまは、申し訳ないですがご入塾できません。あるいは退塾いただきます。

## ・公立中学におけるアシストの英語対策

次に公立中学校についてのアシストの英語対策をお話します。

繰り返しですが、学習指導要領の改定から英語が難しくなっています。

具体的にいうと覚える英単語だけでも 1.5 倍になりました。

以前であれば、I am, you are を学習している時期に、I want to などの不定詞も形だけとはいえ授業で学習しています。

**多くの個別指導塾は週 1 回、80 分から 90 分くらいの授業で行っていますが、勉強する量が増えているのに、以前と同じことをして同じ様に成績があがるわけがありません。**

たしかに成績がアップする生徒もいます。

そういう生徒さんは平均よりもかなり上で、英語の基礎力がついている生徒さんです。

具体的にいいますと、英検 3 級を持っていると中学英語で根本的に躓くことはまずありません。

よって、アシストでは可能であれば中学 2 年、おそくとも中学 3 年の夏くらいまでに英検 3 級の取得をサポートします。

**そのために、週 1 回の授業料と無料とさせていただきます。**

おおくの個別指導塾では英語、数学の週 2 回をとっている人が多いですが、アシストでは英語 2 回、数学 1 回の週 3 回を推奨しています。(それで授業料は週 2 回と同じです。)

## ・勉強がとにかく苦手な生徒様

勉強がとにかく苦手な生徒さん、たとえば 500 点満点で 150 点以下の生徒様、そのような生徒さまもやる気のある方は歓迎です。

もし、学校の宿題もまともに出したことない生徒さんであれば、科目にとらわれずまずは学校の宿題を完成させることから始めます。(ただし、副教科は対象外です。)

一緒に頑張ることで、まずは宿題をやりどけることから始めましょう。

本番の点数よりも内申点で合格する学校選びをおすすめします。

まずは通知票オール 3 をめざします。

## ・5 科目の定期テスト対策

中学生につきましては、これは中高一貫校生も同じですが、定期テスト前などには普段受講していない、理科・社会などの補講も可能です。

その場合は、必ずしも 1:2 の授業はお約束できませんが、無料で補講としてのテスト対策もご希望であれば可能な限りさせていただきます。

## ・中高一貫校対策について

中高一貫校の生徒様については、学校ごとというより、先生ごとに授業内容を合わせる必要があります。

よって、塾の内容も生徒様にあわせた指導をいたします。

ところで、これから中学受験をご検討のかたに参考になればとおもいますが、いわゆる偏差値の高い中学校がレベルの高い授業をしているかといえば、実はそうでもありません。

例えば、この近隣の私立中学さんとして、常翔学園さん、大阪国際さん、開明さんとありますが、中学入試の難易度としては圧倒的に開明さんが高いです。しかし、授業進度や難易度が大阪国際さんと大きく違うかというとは実はそれほど差はないように思います。

中学受験の難易度としては、常翔学園さんのほうが大阪国際さんよりやや高いイメージですが、カリキュラムのスピードは大阪国際さんの方が早いです。(特に英語)

京阪沿線でいいますと、同志社香里さんはかなり特殊です。

社会、理科はほぼ完全にオリジナルのカリキュラムですし、英語についてもネイティブ感覚に近い先生が教えているので、いわゆる受験英語では教えないような文法も教えることがあります。

アシストではそのような場合、基本的に学校の先生に合わせて授業をしますが、補足説明も行います。

## ・中高一貫校の注意点

中高一貫校の注意点としては、高校受験がないので、わからなくなってもそのまま進学してしまうことです。

これも特に英語が注意です。

中高一貫校で高3になってから挽回したいという生徒さんもいらっしゃいますが、相当の努力が必要です。

実はアシストの一期生の生徒さんがそういう生徒さんでした。

高3の一学期に入塾いただきまして、Are you と Do you から復習しました。

つまり中一英語からの復習です。

毎日6時間位ずっと英語の勉強をしていました。

結果どうなったかというと桃山学院大学に合格しました。

**つまりやればできます。**

しかし、そもそも嫌いな科目であったから今までやっていなかったわけで相当の覚悟と努力が必要です。

## ・高校生、大学受験対策

原則として大学受験は関関同立合格、国公立志望の高2生まで、あるいは高3の予備校とのダブルスクールを想定しています。

私どもの指導方針として、大学受験を検討されているご家庭につきましては、高校選びの時点で大学受験意識した生徒様への進路指導および、保護者様への情報提供を行っています。

したがって、大学受験を意識しているご家庭につきましては、高校受験は一つの通過点として、高校受験の情報提供を行っています。

大学受験という観点で大阪近辺の高校選びを考えますと、東高校より下の偏差値ラインであれば、経済的に問題なければ私立高校を選んだほうがいいと思います。(すでに公立高校を選ばれた方は非常に恐縮ですが。)

その大きな理由は推薦枠です。

偏差値が同じ、いや、むしろ多少低くても私立のほうが、推薦枠が圧倒的に多いのです。

数年前、旭高校の教え子が評定で4.2もあったのに推薦がとれなかったということもあります。(一般で合格しましたが。)

個人的には公立学校の問題だと思っていますが、それが現実です。

## ・高校生の英語対策

アシストでは生徒様にあわせて授業をしますので、学校の補講として学校に合わせた授業をすることもできますし、学校のカリキュラムを無視して、大学受験対策の授業をすることも可能です。

基本的には中高一貫校の生徒さんは学校にあわせて授業をします。

しかし、高2以上で入塾された生徒さんや学校のカリキュラムが遅い場合、逆に早すぎる場合は、大学受験を意識した独自のカリキュラムで授業を行っています。

とくに高3生になると、学校のカリキュラムに合わせる意味があまりないので、原則、学校にあわせず大学受験対策を行います。

そして、高2までに英検2級を取得することを推奨しています。

英検2級を取得すれば大学によってはほぼ合格点をくれる大学もあります。

また、自分でも英語の勉強を進めることができる基礎力が身についている目安にもなります。

#### ・高校生の文系対策

産近甲龍以上の大学では多くの場合、英語、現代文、古文、社会の四科目受験になります。

摂南以下の大学や公募の一部は英語と現代文です。

つまり、産近甲龍以上を目指すか、それ以外かでやることが大きく変わります。

特に、旭高校クラスの生徒さんの場合、古典と社会が大きく負担になってきますので、高一からの通塾をおすすめします。

文理選択がまだでも、できるだけ早く英語の力を身につけるためです。

そして、古典の基礎文法を2年生の夏休み前には完成しておきたいです。

くわえて、社会については2年間に一周はしておきたいです。学校によっては2年間かけて、教科書を一周する学校もありますが、それでは遅い、あるいは3年生がかなりきつくなります。

英語・古典・社会の基礎をできるだけ早期身につけることです。

また現代文については漢検準2級以上取得を目安に漢字の勉強をしつつ、アシストが提供するプロ講師による現代文の授業を取っていただくのがおすすめです。

#### ・高校生の理系対策

理系に進まれる場合は、文系以上に早く進路を決めておく必要があります。

というのも数Ⅲ(C)がスケジュール的にかなりきついです。

大学受験は一般試験が2月にあります。

ということは、1年生のときに1・A、2年生で2・B、3年生で3・(C)とやっている間に合いません。

特に神大以上を目指す場合は1・Aを高1の1学期くらいで終わって、2学期に2・Bに進む必要があります。

実際のところ東以上の高校はそれくらいもスピードで進みます。

先にお話しましたが、中高一貫校では中3で数学は高校分野にはいってきませんが、何のためかというと理系に進んだ場合、高2までに数Ⅲ・(C)のほとんどを終わるためです。

アシストの考える良い授業とは

当然、生徒のやる気があがって成績があがって、志望校に合格するのが良い授業です。

しかしそれはあまりに抽象的な答えです。

ここでは個別指導塾におけるよくある誤解をお話しておきたいと思います。

・先生（講師）の教えている時間が長い授業が、成績が上がる授業とはかぎらない。

基本的に個別指導の良い授業は、講師が話している時間が短くて、生徒がペンを動かしている時間が長い授業が良い授業です。

生徒の多くは解き方や答えをすぐに知りたがります。

しかし大事なことは考えることや、勉強の仕方を学ぶことです。

講師はポイントだけ話して、生徒がペンを動かしている授業が良い授業です。

ただし例外もあります。たとえば高3の難しい数学や、英語の長文、さらに中学受験の国語などです。そういった授業は予め生徒が自習や宿題で解いてきて、講師の解説を聞いたり、わからないところを質問する授業になります。

このような授業は講師が話している時間が長くならざるを得ません。

しかし、平均レベルの中学生の授業はむしろ生徒がペンを動かしている時間が長い授業の方がいい授業です。

・通塾しているだけでは成績はあがらない

例えば週1回80分、宿題もなし。

こういう授業で結果がでるのは公立中学校の平均点以下の成績です。

基本的に成績が上位層の生徒、あるいは学年があがるほど、塾にきていないときの勉強法が大事になってきます。

たとえば、週1回80分の勉強で合格できる大学などありませんし、それで合格できるなら通塾の必要はありません。

アシストは自習スペースは営業時間中はいつでも利用できます。

また、補講も原則無料で行っています。

最低限度の宿題はもちろん、塾以外の勉強も行っただきます。

特に中学受験生は授業以外の時間もしっかりと宿題の指示をいたしますので、自習スペースで行っていただき、わからないところはいつでも質問にお答えします。

- ・小中学生はしかります。高校生はしかりません。

個別指導塾の多くは集団授業ほど叱りません。

しかし、アシストは態度の悪い生徒や宿題をしない生徒は叱ります。

とくに中学生や中学受験生は集団塾のように叱ります。

場合によっては「帰れ。」とまでいいます。

当塾では補講も可能な限り無料でさせていただいております。そして自習スペースも提供しています。

よってまじめに勉強したい生徒に迷惑のかかる行為や宿題をしない生徒はしかります。

ただし、単にしかるだけでなく、可能な限り補講に呼びます。

一方高校生はしかりません。

勉強のやり方はお伝えいたしますが、やる気が云々という生徒さんは、まずはやる気になってからきてください。

- ・コピー機、ネット環境は無料で使用できます。

学校のプリント、塾の教材などのコピーは無料をご利用いただけます。

また最近ではデータでの課題提出や学校から解答を送られてくる場合も多いですが、wifiも無料で開放しております。

- ・自習スペース
- ・中学生はいつでも5科目質問可能。(高校生は科目によります)
- ・補講も原則無料
- ・コピー機、wifiなどの施設も無料開放

アシストは勉強できる最高の環境を提供しております。

やる気のある生徒様はぜひともお待ちしております。

個別指導学院アシスト 学院長 前田敏秀

個別指導学院アシストの学習指導方針について

～志望校合格と点数アップのために～

はじめに

個別指導学院アシストの代表の前田敏秀と申します。

このたびは本小冊子をお読みくださりありがとうございます。

本学院は開講して三年目の学習塾になります。

私自身の経歴としましては、大手塾などを経験し、集団授業、個別指導、両方の指導に関わってきました。

対象の生徒様は公立小学校の生徒様、中学受験生、中学生、中高一貫生、高校生、大学受験生など様々です。

多くの塾様は公立の中学校の専門の塾様が多いですが、地域密着の塾としては、大学受験を一つのゴールとして、受験にかかわる総合的なアシストをさせていただいております。

実際のところ、2023年9月現在におきましては、通われている生徒様も公立中学（蒲生中、董中など）は少なく、私立の中高一貫校の生徒様、および高校生の生徒様のほうが多いです。

この小冊子では現在における肌で感じている教育の現場の現状、及び問題点、そして、アシストの考えをお伝えいたします。

その上で、ご関心をおもちいただければ、ぜひともまずは個別説明会、体験授業にお越しくださいませ。

小学校、中学校、中高一貫校、高校における現場から見える学校の現状と課題、そしてアシストができる問題解決についてお話させていただきます。

## ・小学校の現状と問題点

今、小中学生の学力低下、特に読解力の低下が問題視されています。

実は、原因はわりとはっきりしていてスマホだと言われています。

読解力の低下については、アシストを開講する以前から長年感じている問題です。

国語における「読む力」との低下です。

国語とは日本語です。

国語が苦手な生徒さんは漫画すら読みません。小説や物語などはなおさらです。

また一般常識としての童話をしりません。「シンデレラ」「浦島太郎」「白雪姫」などの話を知らない生徒さんも多いです。

もし、小学生のお子さんをお持ちの保護者の方がこの冊子を読まれていれば、お子さんはそういった童話をお読みでしょうか？

ぜひ聞いてみることをおすすめします。

そして、どんなあらすじであったか聞いてみてください。

小学校の高学年でこたえることができなければ、国語力は黄色信号が点滅しています。

また小中学生全体の読む力が弱く、中1の平均的な国語の点数をとる生徒さんでも、小三レベルの国語の問題に苦戦する生徒さんも多いです。

読む力が弱い原因の一つが、長い文章を読むことに耐えられる集中力が続かないことです。

国語の苦手な生徒さんはA4くらいの問題が読めません。

集中力が続かないのです。

A4 というとこの冊子でここまでかいた文章量くらいです。

しかも実際には小学生向けですから、もっと大きな字で行間も開けて書いてありますので、A5 くらいの分量です。

この分量を読む集中力が続かないのです。

読めないというは2つの段階があります。

一つは文字通り読めなくて集中力が続かないので読むこと自体を投げ出すのです。

アシストでは、そういう場合は講師が声を出して読んで、生徒にあとに続いて声を出して読んでもらいます。

次の「読めない」の段階は文脈が読み取れるかどうかです。

具体的には文章ででてくる「これ」という指示語が的確に把握することができるかどうかです。

国語の苦手な生徒さんはこれできません。

今の例でいうと前の文の「これ」が『文章ででてくる「これ」という指示語が的確に把握すること』が読めない生徒さんも多いです。

特に中学受験では長い文章が出題されます。

イメージとしてはA3両面に文章ぎっしりくらいのイメージです。  
この長い文章を、集中力を途切れさせず、早的確実に読むことが課題になります。  
アシストでは問題を解くだけでなく、まずは生徒様によっては本を読むことに慣れてもらうこと、そして本を読むたのしさを知ってもらうことから始めます。

次に書く力の問題についてです。  
これは表面的にはなかなかわかりません。  
表面的に現れるのは「記述問題」が苦手程度です。  
ですから、小学校、中学校の間は大した問題として表面化していないだけのことです。  
なぜなら、記述問題の点数配分は小さく、極端な話、点数をとるためには記述問題にこだわるよりも、暗記問題をしっかりマスターしたほうが、点数が稼げるからです。  
しかし、高校生になってから、書く力が弱いことについて影響力が如実にでてきます。  
とくに英語で出てきます。  
英語と国語は言語学として表裏一体です。  
なぜなら英語を日本語訳にするときに国語としての書く力や読む力が求められるからです。  
英語の苦手な高校生は国語の書く力が弱いです。  
そもそも日本語の作文が苦手です。  
英語以前に日本語としておかしな文を書きます。  
具体的には英単語の意味を全部調べて、文法的な修飾、被修飾の関係を全部整理して、あとは多少表現を変えながら言葉を並び替えればいだけにも関わらず、それができないこともたくさんあります。

**アシストでは小学校のころから国語力アップを意識した指導をしています。**

次に、小学生における英語についてです。  
現在、小学校でも英語の授業が行われていますが、ほとんどの場合、全く身につかずに中学校のカリキュラムが進んでいます。  
生徒目線では小学校から中学校にあがって急に難しくなっているはずですが。  
**アシストでは小学校のうちに英検4級は取得することを推奨しています。**  
すると、中学校にあがっても、得意科目になっていくことでしょう。  
そのためにアシストでは通常週1回の料金で週2回分の個別指導を受講いただくことが可能です。

・ 中学受験について

アシストではご家庭の経済力に余裕があるのであれば中学受験をおすすめしています。

理由の一つが、公立中を卒業してからの国公立大、特に理系学部の受験が非常に難易度が高いからです。

ご自身が大学受験をされた保護者様も多いと思いますが、保護者の皆様の世代と比べると、理系分野については約1.5倍勉強する量が多くなっています。

そして、保護者様の世代よりも国公立大と関関同立の差が大きいです。

保護者様の世代であれば地方の国立よりも関関同立を選ばれた人も多かった世代ですが、時代は変化しています。

決して易しいわけではないですが、文系については、関関同立は保護者様の世代よりも易しくなっていると思います。

それは背景として少子化の問題があります。

一方、国公立大は難しくなっています。

その背景としましては、理系の勉強量が増えていることと、英語が難しくなっていることがあります。

理系の勉強量が増えているというのは前述のとおりですが、カリキュラムについて、もう少し具体的に申し上げます。

中高一貫校では公立にくらべて、おおよそ一年早くカリキュラムが進みます。

そして高2までに高校の範囲をほぼ修了し、高3は受験対策を行います。

英語は公立と比べて非常に早いというわけでもないですが、数学はどの私立中学も基本的に進むペースが早いです。

なぜかといいますと、高2までに、数学のカリキュラムを終わらせて、高3はひたすら復習と国公立の2次試験対策をする必要があるからです。

公立トップの文理学科に行く生徒でも、国公立大を目指す生徒は半分くらいは浪人します。

その理由の多くが、公立高校では2次試験対策が間に合わないからです。

理系の厳しさは国公立大だけではありません。

関関同立でも数学は公立中、公立高校にいくと時間的にかなり厳しいものになります。

次に英語です。

特に英語の配点が共通テストにおいて200点中、100点がリスニングです。

これはペーパーテストしかしたことがない生徒が、いきなり高3でリスニング対策をしても、なかなか点数はとれません。

よって、当塾でも推奨していますが、私立中学では英検、学校によってはTOEICを受験させることにより、リスニング対策を行います。

アシストでも英検対策を通じて、リスニング、スピーキング対策を行っています。

そして、中高一貫校で英語のいいところは、文法の授業とリーディングの授業を分けて行うことです。

公立は中高一貫校ほど文法をしっかりと学習しません。

そういう意味でもアシストでは学校以上に文法をしっかりと学習していただいています。

そして、公立中に通われている方が気を悪くされては申し訳ないですが、コロナ禍以降、内申点が高くつく傾向にあります。

私の知人で、とある私立高校の教師がいるのですが、公立中学で通知表オール5の生徒で、一番成績の良い生徒と悪い生徒で本番の500満点ペーパーテストが200点の差がついているそうです。

つまり内申点と実際の学力があっていないのです。

ですから、高校受験という目線では内申点が高いことはもちろん重要なのですが、一方、大学受験という目線では実態よりも内申点が高くなるので、大学受験で苦労するということが多々あります

そして、中学受験をおすすめする最大の理由は、あまりに授業態度が悪い生徒がまずいないことです。

私立中の授業においては、だれもが中学受験をクリアしているので、授業中に「まず座れ」「とりあえず後ろ向いて話すな。」という指導を先生がしているという話はききません。

公立中は残念ながらクラスによってはこれがありえます。

すると、勉強を真面目にしたい生徒の邪魔になります。

なお、アシストではそのような生徒さまは、申し訳ないですがご入塾できません。あるいは退塾いただきます。

## ・公立中学におけるアシストの英語対策

次に公立中学校についてのアシストの英語対策をお話します。

繰り返しですが、学習指導要領の改定から英語が難しくなっています。

具体的にいうと覚える英単語だけでも 1.5 倍になりました。

以前であれば、I am, you are を学習している時期に、I want to などの不定詞も形だけとはいえ授業で学習しています。

**多くの個別指導塾は週 1 回、80 分から 90 分くらいの授業で行っていますが、勉強する量が増えているのに、以前と同じことをして同じ様に成績があがるわけがありません。**

たしかに成績がアップする生徒もいます。

そういう生徒さんは平均よりもかなり上で、英語の基礎力がついている生徒さんです。

具体的にいいますと、英検 3 級を持っていると中学英語で根本的に躓くことはまずありません。

よって、アシストでは可能であれば中学 2 年、おそくとも中学 3 年の夏くらいまでに英検 3 級の取得をサポートします。

**そのために、週 1 回の授業料と無料とさせていただきます。**

おおくの個別指導塾では英語、数学の週 2 回をとっている人が多いですが、アシストでは英語 2 回、数学 1 回の週 3 回を推奨しています。(それで授業料は週 2 回と同じです。)

## ・勉強がとにかく苦手な生徒様

勉強がとにかく苦手な生徒さん、たとえば 500 点満点で 150 点以下の生徒様、そのような生徒さまもやる気のある方は歓迎です。

もし、学校の宿題もまともに出したことない生徒さんであれば、科目にとらわれずまずは学校の宿題を完成させることから始めます。(ただし、副教科は対象外です。)

一緒に頑張ることで、まずは宿題をやりどけることから始めましょう。

本番の点数よりも内申点で合格する学校選びをおすすめします。

まずは通知票オール 3 をめざします。

## ・5 科目の定期テスト対策

中学生につきましては、これは中高一貫校生も同じですが、定期テスト前などには普段受講していない、理科・社会などの補講も可能です。

その場合は、必ずしも 1:2 の授業はお約束できませんが、無料で補講としてのテスト対策もご希望であれば可能な限りさせていただきます。

## ・中高一貫校対策について

中高一貫校の生徒様については、学校ごとというより、先生ごとに授業内容を合わせる必要があります。

よって、塾の内容も生徒様にあわせた指導をいたします。

ところで、これから中学受験をご検討のかたに参考になればとおもいますが、いわゆる偏差値の高い中学校がレベルの高い授業をしているかといえば、実はそうでもありません。

例えば、この近隣の私立中学さんとして、常翔学園さん、大阪国際さん、開明さんとありますが、中学入試の難易度としては圧倒的に開明さんが高いです。しかし、授業進度や難易度が大阪国際さんと大きく違うかというとは実はそれほど差はないように思います。

中学受験の難易度としては、常翔学園さんのほうが大阪国際さんよりやや高いイメージですが、カリキュラムのスピードは大阪国際さんの方が早いです。(特に英語)

京阪沿線でいいますと、同志社香里さんはかなり特殊です。

社会、理科はほぼ完全にオリジナルのカリキュラムですし、英語についてもネイティブ感覚に近い先生が教えているので、いわゆる受験英語では教えないような文法も教えることがあります。

アシストではそのような場合、基本的に学校の先生に合わせて授業をしますが、補足説明も行います。

## ・中高一貫校の注意点

中高一貫校の注意点としては、高校受験がないので、わからなくなってもそのまま進学してしまうことです。

これも特に英語が注意です。

中高一貫校で高3になってから挽回したいという生徒さんもいらっしゃいますが、相当の努力が必要です。

実はアシストの一期生の生徒さんがそういう生徒さんでした。

高3の一学期に入塾いただきまして、Are you と Do you から復習しました。

つまり中一英語からの復習です。

毎日6時間位ずっと英語の勉強をしていました。

結果どうなったかというと桃山学院大学に合格しました。

**つまりやればできます。**

しかし、そもそも嫌いな科目であったから今までやっていなかったわけで相当の覚悟と努力が必要です。

## ・高校生、大学受験対策

原則として大学受験は関関同立合格、国公立志望の高2生まで、あるいは高3の予備校とのダブルスクールを想定しています。

私どもの指導方針として、大学受験を検討されているご家庭につきましては、高校選びの時点で大学受験意識した生徒様への進路指導および、保護者様への情報提供を行っています。

したがって、大学受験を意識しているご家庭につきましては、高校受験は一つの通過点として、高校受験の情報提供を行っています。

大学受験という観点で大阪近辺の高校選びを考えますと、東高校より下の偏差値ラインであれば、経済的に問題なければ私立高校を選んだほうがいいと思います。(すでに公立高校を選ばれた方は非常に恐縮ですが。)

その大きな理由は推薦枠です。

偏差値が同じ、いや、むしろ多少低くても私立のほうが、推薦枠が圧倒的に多いのです。

数年前、旭高校の教え子が評定で4.2もあったのに推薦がとれなかったということもあります。(一般で合格しましたが。)

個人的には公立学校の問題だと思っていますが、それが現実です。

## ・高校生の英語対策

アシストでは生徒様にあわせて授業をしますので、学校の補講として学校に合わせた授業をすることもできますし、学校のカリキュラムを無視して、大学受験対策の授業をすることも可能です。

基本的には中高一貫校の生徒さんは学校にあわせて授業をします。

しかし、高2以上で入塾された生徒さんや学校のカリキュラムが遅い場合、逆に早すぎる場合は、大学受験を意識した独自のカリキュラムで授業を行っています。

とくに高3生になると、学校のカリキュラムに合わせる意味があまりないので、原則、学校にあわせず大学受験対策を行います。

そして、高2までに英検2級を取得することを推奨しています。

英検2級を取得すれば大学によってはほぼ合格点をくれる大学もあります。

また、自分でも英語の勉強を進めることができる基礎力が身につけている目安にもなります。

#### ・高校生の文系対策

産近甲龍以上の大学では多くの場合、英語、現代文、古文、社会の四科目受験になります。

摂南以下の大学や公募の一部は英語と現代文です。

つまり、産近甲龍以上を目指すか、それ以外かでやることが大きく変わります。

特に、旭高校クラスの生徒さんの場合、古典と社会が大きく負担になってきますので、高一からの通塾をおすすめします。

文理選択がまだでも、できるだけ早く英語の力を身につけるためです。

そして、古典の基礎文法を2年生の夏休み前には完成しておきたいです。

くわえて、社会については2年間に一周はしておきたいです。学校によっては2年間かけて、教科書を一周する学校もありますが、それでは遅い、あるいは3年生がかなりきつくなります。

英語・古典・社会の基礎をできるだけ早期身につけることです。

また現代文については漢検準2級以上取得を目安に漢字の勉強をしつつ、アシストが提供するプロ講師による現代文の授業を取っていただくのがおすすめです。

#### ・高校生の理系対策

理系に進まれる場合は、文系以上に早く進路を決めておく必要があります。

というのも数Ⅲ(C)がスケジュール的にかなりきついです。

大学受験は一般試験が2月にあります。

ということは、1年生のときに1・A、2年生で2・B、3年生で3・(C)とやっている間に合いません。

特に神大以上を目指す場合は1・Aを高1の1学期くらいで終わって、2学期に2・Bに進む必要があります。

実際のところ東以上の高校はそれくらいもスピードで進みます。

先にお話しましたが、中高一貫校では中3で数学は高校分野にはいってきませんが、何のためかというと理系に進んだ場合、高2までに数Ⅲ・(C)のほとんどを終わるためです。

アシストの考える良い授業とは

当然、生徒のやる気があがって成績があがって、志望校に合格するのが良い授業です。

しかしそれはあまりに抽象的な答えです。

ここでは個別指導塾におけるよくある誤解をお話しておきたいと思います。

・先生（講師）の教えている時間が長い授業が、成績が上がる授業とはかぎらない。

基本的に個別指導の良い授業は、講師が話している時間が短くて、生徒がペンを動かしている時間が長い授業が良い授業です。

生徒の多くは解き方や答えをすぐに知りたがります。

しかし大事なことは考えることや、勉強の仕方を学ぶことです。

講師はポイントだけ話して、生徒がペンを動かしている授業が良い授業です。

ただし例外もあります。たとえば高3の難しい数学や、英語の長文、さらに中学受験の国語などです。そういった授業は予め生徒が自習や宿題で解いてきて、講師の解説を聞いたり、わからないところを質問する授業になります。

このような授業は講師が話している時間が長くならざるを得ません。

しかし、平均レベルの中学生の授業はむしろ生徒がペンを動かしている時間が長い授業の方がいい授業です。

・通塾しているだけでは成績はあがらない

例えば週1回80分、宿題もなし。

こういう授業で結果がでるのは公立中学校の平均点以下の成績です。

基本的に成績が上位層の生徒、あるいは学年があがるほど、塾にきていないときの勉強法が大事になってきます。

たとえば、週1回80分の勉強で合格できる大学などありませんし、それで合格できるなら通塾の必要はありません。

アシストは自習スペースは営業時間中はいつでも利用できます。

また、補講も原則無料で行っています。

最低限度の宿題はもちろん、塾以外の勉強も行っただきます。

特に中学受験生は授業以外の時間もしっかりと宿題の指示をいたしますので、自習スペースで行っていただき、わからないところはいつでも質問にお答えします。

- ・小中学生はしかります。高校生はしかりません。

個別指導塾の多くは集団授業ほど叱りません。

しかし、アシストは態度の悪い生徒や宿題をしない生徒は叱ります。

とくに中学生や中学受験生は集団塾のように叱ります。

場合によっては「帰れ。」とまでいいます。

当塾では補講も可能な限り無料でさせていただいております。そして自習スペースも提供しています。

よってまじめに勉強したい生徒に迷惑のかかる行為や宿題をしない生徒はしかります。

ただし、単にしかるだけでなく、可能な限り補講に呼びます。

一方高校生はしかりません。

勉強のやり方はお伝えいたしますが、やる気が云々という生徒さんは、まずはやる気になってからきてください。

- ・コピー機、ネット環境は無料で使用できます。

学校のプリント、塾の教材などのコピーは無料をご利用いただけます。

また最近ではデータでの課題提出や学校から解答を送られてくる場合も多いですが、wifiも無料で開放しております。

- ・自習スペース
- ・中学生はいつでも5科目質問可能。(高校生は科目によります)
- ・補講も原則無料
- ・コピー機、wifiなどの施設も無料開放

アシストは勉強できる最高の環境を提供しております。

やる気のある生徒様はぜひともお待ちしております。

個別指導学院アシスト 学院長 前田敏秀